

官報

號外

明治三十五年二月七日 金曜日

印 刷 局

○第十六回 帝國議會衆議院議事速記録第十二號

明治三十五年二月六日(木曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第十一號 明治三十五年二月六日

午後一時開議

第一

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第三 粗製樟腦、樟腦油專賣法案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第五 耕地整理法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第九 沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第十一 骨牌稅法案(政府提出)

第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第十三 (第一號)明治三十四年度歲入歲出總豫算追加案

第一讀會

第十四 (第一號)明治三十五年度歲入歲出總豫算追加案

第一讀會

第十五 (特第一號)明治三十五年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

第一讀會

第十六 加案(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第一讀會

第十七 地方學事通則中改正法律案(政府提出貴族院送付)

第一讀會

第十八 幼者飲酒禁止法案(根本正外)

第一讀會

第十九 營業稅法中改正法律案(恒松隆慶外)

第一讀會

第二十 特別報告第一號)庄内川改修ノ請願

第一讀會

第二十一 (特別報告第二號)島根縣邇摩郡溫泉津村

第一讀會

第二十二 (特別報告第三號)信濃川開鑿移轉ノ請願

第一讀會

第二十三 (特別報告第四號)島根縣飯石郡頓原村ニ電信局開設ノ請願

第一讀會

二十四 (特別報告第五號)北海道鐵道速成ノ請願

第一讀會

○議長(片岡健吉君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

(第三號)明治三十四年度歲入歲出總豫算追加案

(第四號)明治三十四年度歲入歲出總豫算追加案

(特第一號)明治三十四年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案

骨牌稅法案

(第五號)明治三十四年度歲入歲出總豫算追加案

貴族院所書記官大谷順作君農商務省所管事務政府委員仰付ケラレタル旨桂内

閣總理大臣ヨリ通牒アリタリ

貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

農工銀行法中改正法律案

耕地整理法中改正法律案

貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル政府提出案移民保護法中改正法律案、鐵道敷設

法中改正法律案、北海道鐵道敷設法中改正法律案、及本院ノ回付ニ係ル政府

提出案大藏省證券條例中改正法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

巖手縣第二區選出議員篠民三君當選無效ノ結果山崎庸哉君當選確定ノ旨大

森内務總務長官ヨリ通牒アリタリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

舞鶴鐵道速成ニ關スル建議案

倉庫營業ニ關スル法律案

提出者 石黒涵一郎君 鹿島秀磨君 石田貫之助君

提出者 元田肇君 山本幸彦君

提出者 鹽田忠左衛門君

在外國本邦居留地小學校教育費國庫補助法案

提出者 白井哲夫君

登錄稅法中改正法律案

所得稅法中改正法律案

提出者 恒松隆慶君

深尾龍三君 木村誓太郎君 加藤六藏君

西谷金藏君石谷董九郎君ヨリ第一期鐵道線完成ニ關シ工藤行幹君ヨリ北清

戰利品ニ關シ質問主意書ヲ提出セラレタリ
委員長理事左ノ適當選セラレタリ

明治二十九年法律案第六十三號中改正法律案

委員長 尾崎 行雄君 理事

竹内 正志君

存置ヲ要セサル國有林野ノ特賣ニ關スル法律案

委員長 井手 毛三君 理事

門馬 優經君

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法別表中改正法律案外一件

委員長 西原 清東君 理事

橋元 昭君

地方學事通則中改正法律案

委員長 根本 正君 理事

千田 軍之助君

電害地地租特別處分法案

委員長 田村 順之助君 理事

村瀬 庫次君

町村制中改正法律案

委員長 丸山嵯峨一郎君 理事

田中 喜太郎君

斗南藩士族家祿處分法案

委員長 關信之介君 理事

佐治 幸平君

第一期鐵道線完成ニ關スル質問書

右成規ニ據り提出候他

明治三十五年二月五日

提出者 西谷 金藏 石谷 董九郎
賛成者 根本 正

外二十九名

第一期鐵道完成ニ關スル質問主意書

一明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第七條ニ規定セル第一期鐵道十二線

路ノ内裏キニ私設ヲ許可セシ北越線外四線路ハ概ね完成ヲ告ケタリ然ル

ニ官設工營ニ屬セル中央線外六線路ノ内北陸ノ一線路ハ僅カニ竣工ヲ告

ケシト雖トモ他ノ六線路ハ今猶工事中ニ在リ而シテ二十七八年戦役以

來物價騰貴ニ基因シ工費豫算ニ大變動ヲ生セシヲ以テ政府ハ奥羽線北陸

線篠ノ井線吳線ノ四線路ニ對シテハ既ニ追加豫算ヲ要求セリ然ルニ其同

一工程ニ在ル中央線鹿児島線山陰山陽連絡線ノ三線路ニ對シテハ未タ何

等ノ措置ヲ爲サヌ彼三線ニ限り何故追加豫算ヲ要求セサルカ且中央線鹿

則チ姫路鳥取間ハ未タ線路調査結了セスト聞ク政府ハ三十五年度ノ總豫

算ニ於テ第二期鐵道以下ノ線路調査費ヲ要求セシニモ拘ラス何故第一期

鐵道ニシテ且現下工事中ニ在ル山陰山陽連絡線ノ一部則チ姫路鳥取間ノ

線路調査ヲ等閑ニ付スルカ且夫レ鐵道敷設法第八條ハ明カニ起工後十二

箇年ヲ以テ成效期限ヲ規定セリ故ニ本院ハ政府ヲシテ其期限ヲ誤ラサ

ランメンカ爲メ第十三回議會以來每會其速成ヲ促サ、ルナシ然ルニ去ル
二十六年度起工ヨリ已ニ九箇年度ヲ經過シ餘ス所僅ニ三箇年度ニ過キサ
ル今日ニ在テ篠ノ井ノ一線路ヲ除キ他ノ中央線吳線鹿兒島線山陰山陽連
絡線ノ四線路ハ工程未タ其半ニ達セヌ猶且三豫算未確定アリ一線路調査
未結了アリ如斯ンハ期限内ノ成效得テ望ムヘカラサルカ如シ政府ハ何故
ニ本院ノ輿望ヲ疎外シテ顧ミサルカ又何等ノ方法ニ據リ期限内ニ全線路
ヲ竣效シ其責任ヲ完了スルカ

二元來山陰道ニ於ケル農商工其他各般ノ進歩甚ダ遲タル所以ノモノハ主
トシテ交通機關ノ施設ニ闕クル所アルカ爲ナリトス山陰山陽連絡鐵道ノ
急ヲ要スル理由モ亦實ニ茲ニ存ス故ニ該線路ハ其名ノ如ク先以テ姫路ヨ
リ鳥取ニ至ル區間ヲ以テ急中ノ急務トシ鳥取境間之ニ次クモノトス然ル
ニ政府ハ其緩急順序ヲ誤リ境鳥取間ヲ先ニシ却テ鳥取姫路間ヲ等閑ニ附
セリ既ニ緩急ヲ誤リタル而已ナラス現ニ米子鐵道作業局出張所ノ如キハ
鳥取姫路區間ニ就テハ本局ヨリ曾テ何等ノ命令ヲ受ケシコトナク隨テ此
區間ノ線路調査ノ職權ナキモノナリト聞ク政府ハ何故ニ如斯緊急ノ工事
ヲ等閑ニ附スルカ

北清戰利品ニ關スル質問
右成規ニ據り提出候也

明治三十五年二月六日

提出者 工藤 行幹

北清戰利品ニ關スル質問

若干ナルヤ

一、北清事變ニ際シ戰利品トシテ政府ニ收入セシ金銀物品ノ種類及價格ハ

二、前項ノ金銀及物品ノ代價政府ニ收入セシ年月日及其回數如何

三、既ニ收入セシ金銀ノ外今後尙收入スヘキ見込アルヤ否ヤ

四、政府ニ收入セシ金員ハ目下現在セシヤ又ハ幾分ヲ消費シ若クハ今後其

用途ヲ經畫セシモノアラハ其詳細ヲ明答アリタシ

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、諸君ニ御諮詢致シマス、德差

藤兵衛君、病氣ノタメ本月四日ヨリ三週間ノ請暇、麻生太吉君病氣ノタメ本

月五日ヨリ二週間ノ請暇、中山平八郎君病氣ノタメ本月六日ヨリ三週間ノ請

暇、岡本松太郎君病氣ノタメ今七日ヨリ二週間ノ請暇、出水彌太郎君病氣ノ

タメ本月四日ヨリ二週間ノ請暇、各之ヲ許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス

鐵道ニシテ且現下工事中ニ在ル山陰山陽連絡線ノ一部則チ姫路鳥取間ノ

線路調査ヲ等閑ニ付スルカ且夫レ鐵道敷設法第八條ハ明カニ起工後十二

箇年ヲ以テ成效期限ヲ規定セリ故ニ本院ハ政府ヲシテ其期限ヲ誤ラサ

○議長(片岡健吉君) 公報三十三號ノ部會開會欄内ニ六部會決算委員ノ石谷董九郎君辭任ニ付其補缺選舉云々ト云フコトガ掲ゲテアリマスガ、是ハ誤載デアリマスカラ、之ヲ取消シマス、此誤載ヲ致シタコトニ附イテハ、十分ニ注意フシテ置キマシタ、菅野善右衛門君カラ提出セラレマシタ議院法中改正法律案ハ、一度マデ委員會ヲ開カレテ委員長理事ノ互選會ガアリマシタガ、遂ニ成立タヌ様子デアリマスカラ、此委員ニナラレマシタ諸君ハ、速ニ委員長理事ヲ選舉セラレンコトヲ、御注意フシテ置キマス

○西谷金藏君(二百八十一番) 質問題意書ヲ提出シテ置キマシタガ、丁度豫算ノ分科會ト時間ガ衝突致シマスノデ、此次ノ開會ニ理由ヲ陳辯致シタウ存ジマス

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御詣リスルコトガアリマスガ、豫算ノ第四分科會ヲ唯今ヨリ開キタイト云フコトヲ、主査ヨリ申出テ居リマスガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス
○門脇重雄君(百二十九番) 豫算委員中第四分科受持ノ方ハ、是ヨリ第八委員室ニ御集リヲ願ヒマス

(工藤行幹君演壇ニ登ル)

○工藤行幹君(百三十六番) 諸君、私ハ北清事變ニ附イテノ我邦ノ戰利品ノ額ヲ諒知致シタイト思フカラシテ、質問書ヲ提出致シマシタノデゴザリマスル、其質問ノ趣旨ト云フモノハ、第一ハ北清事變ニ對シ、戰利品トシテ政府ニ收入シタ回數ハ、何度ニ之ヲ收入シタモノデアルカ、若クハ何月何日ニ之ヲ收入シタモノハ凡ソ幾ラデアルカト云フコトガ第一條、第二ハ前項ノ内、金銀又ハ物品ノ代價ガアルダラウカラシテ、其仕譯、ソレカラ其金ヲ現ニ政府ニ收入シタ回數ハ、何度ニ之ヲ收入シタモノハドウ云フモニハドウ云フモニニ使シテ居タルカ、又ハ今後ソレドウ云フ途ニ使ハウト云フ政府ノ計畫ガアルカ、若クハ又收入スル見込ノアルカナイカト云フコトヲ確メタイ、其次ハ此政府ニ收入シタ金員ノ内、既ニ使シタモノハドウ云フモニニ使シテ居タルカ、又ハ今後ソレドウ云フ途ニ使ハウト云フ政府ノ計画ガアルカ、若クハ又幾分ハ政府ノ金庫ニ存在シテ居ルカ否ヤト云フ、此四箇條ヲ確メタイト思フノデゴザイマス、元來此戰利品ノ如キハ、餘り名義ノ正シイ金錢デハゴザイマセスカラシテ、私ハ餘リ公會ノ席ニ於テ、是等ノコトヲ質問スルコトヲ好ンデ爲スモノデハゴザイマセヌ、併ナガラ從來政府ノ爲ス所ヲ見ルニ、如何ニモ遺憾ニ堪ヘヌコトガ、往々出テ來ルノデゴザリマス、故ニ吾ニハ此政府ノ歲入歲出ニ附イテ協賛ヲ與ヘル責務ノアルト共ニ、又一方ニハ政府ノ財政ヲ監督シナケレバナラヌト云フ、吾ニハ職權ヲ有テ居ル者デアル、故ニ此金員ヲ審ニシナクテハ、或ハ協賛シ或ハ監督スル上ニ附イテ、往々差支ガアルト云フコトハ、獨リ本員ノミナラズ諸君モ御同感デ

イマス、吾ミノ此疑團ヲ懷クト云フモノハ、昨年政府ガ增稅案ヲ提出シタ際ニ、吾ミモ其特別委員ノ一人デアツタノデゴザリマス、其時ニハ此戰利品ノ員數ヲ政府ニ質問シタ所ガ、政府委員ノ坂谷君ガ、前日ニ答ヘタ所ハ百九十万圓トカハ既ニ收入シタ、此外ニマダ百何十万圓トカ云フモノガ、今後收入スベキ見込モアルト云フコトヲ答ヘラレタガ、翌日ノ委員會デハ、前ノ百九十万圓ヲ收入シタノミテ、後トカラ此百幾ラト云フモノヲ收入シヤウトシタコトハ、見込ガナイト云々テ前日ノ演説ヲ取消サレタノハ、如何ニモ私が當時聊カ疑團ヲ懷イテ居ツタノデアル、然ルニ其後ニ至ツテ又一ノ疑團ヲ懷クコトガアル、蓋シ是ハ新聞ノコトデゴザイマスケレドモ、吾ミハ事實デハナイカト信ズル事ガアルノテ、何新聞デアルカト云ヘバ、日本新聞ニ之ヲ評シテ曰ク、此戰利品カ分捕品カ知ラヌガ、其内二十万圓ノ金ト云フモノハ、第五師團ニ於テ五師團限ノ何カノ費用ニ充ツルタメニ國庫ニ收入セシメナイズ、五師團師内ニ之ヲ存在シテ置キタイト云フコトヲ、時ノ當局者ニ言ッタラバ略々同意ヲ得タ、故ニ五師團ハ此二十万ノ金ヲ五師團限リニ、茲ニ存在シテ置キタイト云フ積デアツタ、所ガ其後陸軍大臣ハ第五師團長ニ談ジテ、之ヲ五師團限ニ此金ヲ持ツテ居ルノハ、固ヨリ法律ノ許ス所デナイ、而シテ世論幕々トシテ攻擊ノ向ヒテ來タ今日デアルカラシテ、此金ヲ五師團限ニ存在シテ置クト云フコトハ宜シクナイカラシテ、政府ニ納メタラヨカラウト云フコトヲ云ウタ、ソレデ五師團長モ其金ヲ政府ニ納メタト云フコトヲ、記載シテアル、是ガ如何ニモ本當ダト云フナラバ、如何ニモ怪シカラヌコトデアル、五師團所デヤナイ、陸軍省ト雖モ決シテソシナ金ヲ私ニ存在シテ置クコトノ出來ナイノニ、若シサウ云フコトガアツタリトスル譯ナラバ、殆ド日本ノ會計法ヲ蹂躪シタモノデアルト謂ハオケレバナラヌノデゴザイマス、又昨今國民新聞ノ言フ所ニ據レバ、凡ソ此戰利品ト云フモノハ、或ハ銀ヲ金ニ直シタ代價、或ハ米穀其他ノゼノヲ賣拂ッタ代價ヲ併セテ、五百七十一萬圓程デアルト謂フコトデゴザリマス、是モ餘程計算ガ明細ニナシテ居リマスカラ、シテ、或ハ事實デハナイカト思フノデゴザイマス、然ルニ又一方ノ新聞デハ、此頃貴族院ノ豫算委員會ノ祕密會ニ於テ、政府カラ外ニ二百萬圓トカ、此戰利品ガアツタト云フコトヲ言シタト、新聞ガ書イテ居ルモノガアル、或ハ現ニ此衆議院ノ豫算ノ席ニ於テ、政府デ今後出ス所ノ、今既ニ今日朗讀ニナリマシタ所ノ追加豫算ノ財源ハ、或ハ又戰利品ノ金ヲ財源ニシタト云フコトガアルヤウニ承シテ居ル、而シテ一方ノ豫算ヲ見ルト云フト、是ハ雜收入ノ内テハゴザイマセウガ、雜收入ノ内ニ本豫算ノ内ニハ、是ダケノモノハ書イテ居ラヌノデゴザイマス、是ハ甚ダ吾ミノ疑フ所デアル、戰利品デアルナラバ、昨年五師團ノ引上ゲタトキ杯ハ、最早其額ト云フモノハ極ツテ居ルダラウ五師團ガ既ニ、引上ゲタ後ニ、戰利品ノアルベキヤウハナイ、軍ガ仕舞シテシマタノデアル然レバ此果シテ五百二十萬圓ノ金ガアルナラバ、三十五年度ノ

總豫算ノ難收入ナリ其他ヘ、之ヲ收入ニ現サナクテハナラスト云フコトハ、當リ前ノコトデアル、然ルニ本豫算ニハナクシテ、今後出ス所ノ追加豫算ノ財源トシテ出スト云フコトハ、如何ニモ証シイ、或ハ五師團ハ速ニ戰利品ヲ政府へ納ムベキモノヲ納メズシテ、之ヲ持ツテ居タノヲ、ソレヲ財源トシテ、マダボツ追加豫算トシテ金ヲ見出シタカラシテヤルト云フヤウナコトデハ、如何ニモ國家ノ財政ノ紊亂ト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、何レガ事實カ、殆ド吾吾ハ了解ニ苦ムタメニ、今後出ル所ノ豫算ニシテモ、贊否ヲ決スルコトニモ感フ譯デアリマス、況ヤ是等ノコトヲ公會デ謂ヒタクハナクテモ、既ニ新聞紙デ明ニ之ヲ言ウテアルノニ、政府ハ斯ノ如キ曠昧ナルガ如キ手段ヲ執ツテ居ッハ、獨リ内國人民ニ疑ノミナラズ、外國人民ニ對シテモ、甚ダ日本ノ名譽ニ關係スルコトダラウト思ヒマスカラシテ、此事ヲ明ニシテ以テ社會ニ發表シ、又吾ニモ之ヲ明ニ知ルヲ得テ以テ、此費途ヲ極メ、又之ニ對スル所決ヲ爲サントスルモノデゴザイマスルカラシテ、免ニモ角ニモ此戰利品ヲ金ニ直シタ所ノ額、ソレカラ取シタトキガ何回ニ取シタカ、今後マダ取ルベキモノノアカルノヲ、或ハ或ル師團トカ或ル旅團デ持ツテ居ルヤウナコトガアリハセヌカ、サウ云フコトデハ最モ不都合デゴザイマス、又其金ヲ何レヘ充テントスル積デアルカ、既ニ徵收シタト云フモノガアルナラバ、其徵收シタト云フノハ、何等ノモノニ徵收シテ之ヲヤッタノデアル、之ヲ明ニシタイタメニ、此質問ヲ提出シタ所以デゴザイマスカラシテ、仰ギ願ハタバ政府ハ世ノ疑團ヲ解クタメニ、一日モ早ク此徵收シタコトヲ、吾ニニ明示セラレマスコトヲ、偏ニ希望スルモノデゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ議事日程第一ニ移リマス、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略シマス

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ議事日程第一ニ移リマス、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略シマス

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ議事日程第一ニ移リマス、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第一 裁判所位置及管轄區域變更ニ關スル法律案(政府提出)

第一 読會

裁判所位置及管轄區域表
表ノ通改定ス

裁判所位置及管轄區域表

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

院控訴	判所	所	管轄
新潟	越後	國	管
新潟市	新潟郡	新潟縣	管
中野原郡ノ内	中野原郡ノ内	新潟縣	管
西蒲原郡ノ内	西蒲原郡ノ内	新潟縣	管
内野力村	内野力村	新潟縣	管
四坂井輪村	四坂井輪村	新潟縣	管
合谷村	合谷村	新潟縣	管
小吉崎村	小吉崎村	新潟縣	管
大秋原津村	大秋原津村	新潟縣	管
曲通村	曲通村	新潟縣	管
中合村	中合村	新潟縣	管

| 院控訴 | 判所 | 所 |
<th
| --- | --- | --- |

第三條 政府ハ收納シタル粗製樟腦、樟腦油ニ對シ賠償金ヲ交付ス賠償金

ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第四條 政府ヨリ賣渡シタル粗製樟腦、樟腦油ニ非サレハ所有、所持、讓渡、質入若ハ消費シ外國ニ輸出シ又ハ内地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ス但シ納付期限前又ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遲延シタル場合ニ於テ所

有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 樟腦、樟腦油ハ政府指定以外ノ港湾ヨリ之ヲ外國ニ輸出シ又ハ内地臺灣間ノ輸送ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 粗製樟腦ヲ精製セムトスル者又ハ政府ヨリ賣渡ヲ受ケタル粗製樟腦ノ精製業ハ粗製樟腦、樟腦油ノ製造業ト相兼ヌルコトヲ得ス

粗製樟腦ノ精製業ハ粗製樟腦、樟腦油ノ製造業ト相兼ヌルコトヲ得ス

政府ハ樟腦、樟腦油ノ需要供給ノ情況ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造高ヲ制限スルコトヲ得

第七條 粗製樟腦、樟腦油ノ製造ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ違背シ、豫定ノ期間内ニ事業ニ着手セス又ハ豫定ノ條件ヲ履行セサルトキハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

眷地ノ狀況ニシテ公安上必要アリト認ムルトキハ政府ハ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ停止シ又ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條 當該官吏ハ樟腦、樟腦油ノ製造場、貯藏場其ノ他樟腦、樟腦油ノ所在ト認ムル場所ニ立入り検査ヲ爲シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運搬中ニ係ルモノニ付亦同シ

第九條 樟腦、樟腦油ノ製造ノ許可、收納及賣渡ノ事務ハ臺灣總督府專賣局之ヲ行フ但シ内地ニ於ケル樟腦、樟腦油ノ製造ノ許可ハ所轄地方廳之ヲ行フ

第十條 樟腦、樟腦油ハ總テ定價ヲ以テ賣渡ス但シ必要ト認ムル場合ハ競争ニ付スルコトヲ得

第十一條 政府ニ納付前粗製樟腦、樟腦油ニ他物ヲ混和シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル樟腦、樟腦油ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡、

上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ粗製樟腦、樟腦油ハ何人ノ所有タルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第十二條 第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル樟腦、樟腦油ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡、

消費シ又ハ輸出シタルトキハ其ノ代價ニ相當スル金額ヲ徴収ス

第十三條 政府ヨリ賣渡ヲ爲ササル粗製樟腦、樟腦油ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルトキハ第十一條ノ場合ヲ除クノ外政府ハ之ヲ收納シ第三條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第十四條 第八條ノ場合ニ於テ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ其ノ規定ニ依ル

第十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合又ハ情ヲ知ラスシテ第四條ニ違背シタル場合ニハ不論罪ニ關シ刑法ノ規定ニ依ル

第十七條 樟腦、樟腦油ノ製造業者又ハ取引人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造業者又ハ取引人ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基ツキ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十八條 本法施行ノ爲必要ナル規程ハ内地ニ於テハ主務大臣、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

第十九條 本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行ノ際内地ニ於テ製造業者又ハ賣買業者ノ所有スル粗製樟腦、樟腦油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ準シ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第二十一條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦、樟腦油ヲ製造スル者ハ明治三十五年五月一日迄ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十二條 臺灣樟腦及樟腦油製造規則ニ依リ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ期間満了ノ日迄本法ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

(政府委員内務總務長官大森鍾一君演壇ニ登ル)

○政府委員(大森鍾一君) チヨット本案大體ノ趣旨ヲ陳述ヲ致シマス、御承知ノ通臺灣ノ樟腦、其他本邦產出シマスル所ノ樟腦ト云フモノハ、頗ル多額ナモノデアリマシテ、今日ハ殆ド世界ノ市場ニアル所ノ樟腦ハ、本邦產ヲ以テ其大部分ヲ占メテ居ルヤウナ次第ニアリマス、而シテ此法案ヲ提出シマシタ所ノ趣旨ハ、第一ハ此特產物ナル樟腦ヲ製出スル所ノ樟樹林ヲ保護ヲ致シマシテ、サウシテ此特產物ノ利益ヲ永遠ニ維持シタイト云フコトハ、又一つハ此我新領土タル臺灣ノ重要ナル財源ト爲シテ居ルモノデアリマスガ故ニ、此財源ヲ鞏固ニシタイト云フ趣意カラ致シマシテ、此案ハ出來マシタモノデアリマスル、元來唯今ハ臺灣ニハ御承知ノ通樟腦專賣法ガ行レテ居リマス、臺灣ダケニハ其專賣法ヲ施行致シマスル前ニ在リマシテハ、樟腦及樟腦油稅則ト云フモノガアリマシテ、是ニ據テ稅ヲ徵收致シテ居リマシタ、其時ノ稅法ニ據リマスレバ、製造稅ハ營業免許鑑札料ヲ徵收シテ居リマシタ、其收入ガ凡ソ四十萬圓内外ノモノデアリマシタノデアリマス、然ルニ其後明治三十二年八月ニ、唯今ノ專賣法ヲ施行致シマシテヨリ、一定ノ價格ヲ維持スルコトガ出來ルヤウニナリマシテ、其以後專賣ノ收入ト云フモノガ、凡ソ三百七十万

以上ノ巨額ニ上リマシタノデ、即チ專賣法施行以前ノ收入ニ比シマシテ、殆ド十倍ニ垂トスル位ノ收入ヲ得ルコトニ立至リマシタ、然ルニ此專賣法ヲ臺灣ニ施行シテ以來、外國市場ニ對シマシテハ、其市場ノ價格ノ平準ヲ保ツコトモ出來ルヤウニナリマシテ、頗ル好結果ヲ奏シマシタ、其結果トシテ自然

樟腦ノ市場ノ價格モ騰貴シテ參リマシタ、而シテ其價格ノ騰貴シテ參リマスル結果トシテ、又他ノ内地ノ樟腦製造業者ニ對シテハ、一ノ影響ヲ來シマシタ、從來餘リ盛デナカツタ内地ノ製造業者モ、其價格ノ騰貴ニ遠レマシテ、俄ニ其業ヲ起スト云フヤウナコトニ相成リマシテ、續々樟腦製造ノコトニ從事スル者ガ殖エテ參リマシタ、其結果專賣施行ノ當時ニ在リマシテハ、三十万乃至五十万斤位ナ内地製造高アリマシタモノガ、三十三年ニ至リマシテハ、百三十万斤程ノ高ニ上ダト云フヤウナ有様アリマス、尤モ臺灣カラ内地ヘ樟腦油ヲ製造シマシテ、是ヨリ再製シタモノモアリマス、是ハ此別ノ勘定ト致シマシテ、全ク内地產ノ樟腦ノ輸出高ハ、三十三年ニ於テハ百二十万斤ト云フヤウナ、俄ニ大キナ高ニ上ボツテ參リマシタノデアリマス、サウシマスルト、從ダテ此外國市場ノ價格ハドウカト云フト、俄ニ低落ヲ致シマシテ、殆ド其以後ハ外國市場ノ相場ヲ賣崩スト云フヤウナ景況ニ陷リマシタノデ、從ダテ又臺灣歲入ノ上ニ於キマシテハ、少カラザル金額ノ減少ヲ見ルヤウナ、不幸ナル有様ニ陷リマシタノデアリマス、テ此ノ如キ有様ニナツテ參リマシテハ、折角今日世界ノ市場ノ一大部分ヲ占メテ居ル所ノ、此本邦產ノ樟腦ト云フモノガ、始終一上一下、殆ド其平準ヲ示スコトが出來ヌ、ソレガタメニ一方デハ内地ノ樟腦林ハ——樟樹林ハ濫伐ヲセラル、市場ニハ價格ヲ保ツコトガ出來ヌト、斯ウ云フ境遇ニ陷リマスル、因ツテ今度ハ單リ此臺灣ノ專賣制度ニ止メマセヌデ、臺灣ト内地ヲ同一系統ノ下ニ支配ヲスル所ノ、一ツノ此專賣法ナルモノヲ制定シマシテ、サウシテ唯今ノ如キ弊害ヲ取締リ、一面ニハ内地ノ樟樹林ヲ保護シ、此我國ノ重要ナル特產物ヲシテ維持ヲシテ往キタイト、斯ウ云フ考アリマスルノデ、此法案ノ大體ヲ申上ゲマスレバ、唯今申シタヤウナ次第アリマス、尙ホ詳細ノコトハ委員會ニ於テ説明ヲ仕リマスル

〔贊成ト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、議事日程ノ第四ニ移リマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ、御異議ハアリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第五耕地整理法中改正法律案、貴族院送付、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——安廣政府委員

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
〔異議ナシ異議ナント呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、議事日程ノ第六ニ移リマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、次ノ日程第六ニ移リマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ

〔贊成ト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、議事日程ノ第七農工銀行法中改正法律案、貴族院送付、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——安廣政府委員
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガアリマセヌケレバ、議事日程ノ第八ニ移

第五 耕地整理法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

耕地整理法第六十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ農工銀行ヨリ借入レタル金額及其ノ利子ニ付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス

(政府委員安廣伴一郎君) 本案提出ノ理由ニ附キマシテ、簡短ニ陳述致シ

○政府委員(安廣伴一郎君) 本案提出ノ理由ニ附キマシテ、簡短ニ陳述致シマス、耕地整理法發布以來、此耕地整理が農事ノ改良ニ附キマシテ、少カラザル裨益ヲ與ヘテ居ルコトハ、別段ニ申スマデモナイコトデアリマス、此耕地整理ヲ致スニ附キマレテ、現行ノ處デハ農工銀行ヨリ金ヲ借リマスニハ、參加土地所有者ガ悉ク皆印ヲ捺サナケレバナラスト云フ、不便ガゴザイマシタ、是ハ耕地整理上ニ餘程不便ナルコトデアリマス、此不便ヲ避ケンガタメニ、本項ヲ改正致シマシテ、整理委員ガ規約ノ定ムル所ニ據シテ、農工銀行ヨリ金ヲ借ルコトガ出來テ、サウシテ參加土地所有者ハ責ニ任ズルト云フコトノ、便法ヲ開キタイト云フ所カラシテ、此改正ヲ要シマスル、是ハ次ノ日程ニ載シテ居リマスル所ノ、農工銀行法ト相俟テ其效ヲ全ウスル所ノモノデゴザリマス、御協賛アランコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、次ノ日程第六ニ移リマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

〔異議ナシ異議ナント呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第七農工銀行法中改正法律案、貴族院送付、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——安廣政府委員

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出、貴族院

第六條第四號中「申出タルトキ」ノ下ニ「又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキ」ヲ加フ

〔政府委員大藏總務長官法學博士阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 是ハ唯今ノ前ノ日程ノ結果カラ起リマスル改正テゴザイマスル、即チ此耕地整理委員ノ規約ニ基キマシテ、農工銀行カラ金ヲ貸シテモ差支ナイト云フ途ヲ開キマスノデゴザイマス、此法律案ハ前ノ耕地整理法ノ法律案ト、詰リ關係モシテ居リマス、成ルベク同一委員ニ御付託ニ

○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガアリマセヌケレバ、議事日程ノ第八ニ移

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恵松隆慶君(二百二十四番) 是ハ政府委員ノ望ミモアリマスガ、詰リ前ノ委員ト同一委員ヲ指名セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 前ノ九名ノ特別委員ニ付託シテ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議カナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第九沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——自賀田政府委員

第九 沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

沖繩縣ノ區長、間切長若ハ一式引受人、三宅島、新島、神津島及御藏島ノ地役人ハ國稅ノ徵集ニ關シ國稅徵收法中滯納處分ノ例ニ依ルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ物品納ノ國稅ニ關スルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ現金ニ換算シテ其ノ急納額ヲ定ム

(政府委員大藏省主稅局長自賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(自賀田種太郎君) 沖繩縣伊豆七島ニ於キマシテノ徵收ノ方法ハ、茲ニ理由書ニ記載シテアリマスル如ク、勅令ヲ以テ舊慣ニ依ルト云フコトニナフテ居リマス、然ル處往々不便ナコトガ多ウゴザリマシテ、今日ニ於テハ内地ニ行ハレル所ノ國稅徵收法ニ依リテ、滯納處分マデモ致シテ宣イヤウナコトデアリマス、即チ本法ノ提出ニ及ビマシタ次第テアリマス、御協賛ヲ請ヒマス

○高木正年君(二百五十三番) チヨフト承リタイ、此沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵收ノコトハ、大島八丈島利島ハ名主若クハ一式引受人トアリマシテ、二宅島新島等ハ地役人トシテアル、ソレデ今度名主ト規定スルナレバ、從來他ノ國稅徵收法ハ名主ガヤツテ居ルカラ、名主ニサセルガ相當デアルト考ヘマスガ、何故ニ地役人ニサセルノデアリマスカ、其點ニ附イテ伺ヒマス

○政府委員(自賀田種太郎君) 是ハ御答シマスルガ、是ハ舊慣ニ依リマシテ、地役人ト云フノハ内地ニ於ケル町村長ノ如キ職務ヲ行ヒマスカラ、是等ニ對シテ町村長ノコトヲ致サセル積ニアリマス

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第十二移リマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第十一骨

牌稅法案、政府提出 第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、自賀田政府委員

第十一 骨牌稅法案(政府提出)

第一讀會

骨牌稅法

第一條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトストキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條 収稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス第三條 骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ每年製造所一箇所毎ニ免許料六十圓ヲ納ムヘシ

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ二十錢ノ稅ヲ課ス

第五條 骨牌稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條 貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 収稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

第十三條 骨牌ノ製造ヲ爲ス者免許料ヲ納付セサルトキハ國稅滯納處分ノ前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十四條 免許ヲ受ケシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ

之ヲ沒收ス

第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シ

タルトキハ脫稅高二十倍ノ罪金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脫稅高二十

倍ノ全額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シ

タルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨

牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓

渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠

リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 収稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之

ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱

發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人

其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販

賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條 本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ

之ヲ適用セス

附 則

第二十二條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ

於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條 本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨ

リ七日以内ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法

ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之

ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ

沒收ス

第二十五條 本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌

ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第

六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條 本法ヲ臺灣ニ施行スル迄又ハ臺灣ニ於テ本法ト同一若ハ之ヨ

リ重キ課稅ヲ爲ス迄ハ臺灣ヨリ本法施行地ニ骨牌ヲ移入スルコトヲ得

前項ニ違犯シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ
沒收ス

○政府委員大藏省主稅局長自賀田種太郎君 漢壇ニ登ル

ノ如キ奢侈品ニ對シテ相當ノ課稅ヲ爲スハ、徵收ノ上ニ於テモ便利デアル

シ、又一ツノ好個ナル財源トシテ、追々增收ヲ見ルニ至ルコトヲ圖ルニハ、至

極便利デアルト云フコトヨリ、提出ニナッタ譯デアリマスル、此法ノ執行ノ上

ニ於キマシテハ、唯今申上ゲマスル如ク、甚ダ便宜ナルガ故ニ、徵稅費ヲ要シ

マセヌ、現在ノ事務ト共ニ此徵稅ヲ行フコトヲ致シマスル、無論是ハ創始ニ

屬シマシテ、精密ナル計算ヲナスコトハ出來マセヌガ、之ニ依シテ平常ニ於テ

收入ヲ得ルノ見込ハ、三十万五千圓有餘デアリマス、茲ニ御協贊ヲ請ヒマス

○東良三郎君(百一十二番) チョット質問シマスガ、此骨牌ニハ弊害ヲ生ジ易

キ奢侈品ナルヲ以テ、之ニ稅ヲ課スルト云フノガ大趣意ノヤウデアリマスガ、

其弊害ト云フノハ、其骨牌ヲ賭博ノ用ニ供スル所謂八八ト云フモノハ杯ニ利用

シテ居ルタメニ、弊害ガアルト云フノデ、ソレニハ多額ノ稅ヲ課シタガ宜カ

ラウト云フ趣意ニ聞エマスガ、果シテサウ云フ趣意デアルカ否ヤフ、第一ニ

御尋ネ申シマス、果シテサウ云フ理由デ見マスト云フト、此弊害ガアルノヲ

原因トシテ、稅ヲ課スルト云フコトニナレバ、此骨牌ヨリ稅ヲ徵收スルガタ

メニ、此骨牌ヲ賭博ノ用ニ供スルト云フコトヲ、政府ハ公認スルト云フコト

ニナリハシナイカ、サウ云フコトニナラスト云フ理由ヲ、御研究ニナッテ居レ

バ、政府委員ノ御答ヲ願ヒタイ、若シ弊害ト云フモノハ、賭博ノ用ニ供スル

ノデアルカラ、其弊害ヲ全ク杜絶スルト云フノ趣意デアルナラバ、今一層多

額ノ稅ヲ課シテ、禁止的ニ之ヲ止メサセテシマフト云フ御趣意ニマデハ、御

研究ニナッテ居ナイカ、是等ノ點ニ附イテ御答ヲ願ヒタイ、細カイコトハ質問

シマセヌ

○政府委員(自賀田種太郎君) 御答致シマス、弊害ヲ生ジ易キト云フ語勢ハ、

チト強ク聞エマスガ、是ハ唯國民ノ經濟上、又社會ノ政策上、斯ノ如キ奢侈品

ハ課稅スルノヲ便利トスルト云フ意味ヨリ、即チ奢侈品ニ課スルト云フコト

ヨリ起リマシタノデ、是ハ一ツノ遊戯ニ使ヒマスモノデアリマス、デ動キスレ

バ遊惰ニ流ル、傾モアルカラ、サウ云フ先づ比較シテ用ノ少イ奢侈品ハ、課

稅シマシテ宣イト云フ意味カラ來テ居リマス、從ツテ唯今御尋ノ賭博云々ト云

フコトヲ、公認スルハ云フコトマテニハ、涉テ居ラヌノデアリマス、左様

御承知ヲ願ヒタイ、ソレニ依シテ此課稅率モ起案ニナッタ譯デアリマス

○東良三郎君(百一十二番) 今ノ御答ハ、政府提出ノ趣意ト自ラ違ツテ居ラヌ

カト私ハ思フ、併ナガラ敢テ私ハ議論ハシマセヌガ、今ノ御答ノ如キ趣意ナ

リトスレバ、本法ノ末條ニ規定シテアル、伊呂波加留多、歌加留多ト云フモ

ノモ、同ジク遊戲品デアル、此遊戲品デ奢侈品ノ程度ハドウカト申シマスレ

バ、矢張奢侈ト云フ黙カラ考ヘレバ、同ジ奢侈品ニ屬スル、然ルニ單純ナル

伊呂波加留多、歌加留多ニハ稅ヲ課セヌデ、其他ノ骨牌ニノミ稅ヲ課スルト
云フノハ、矢張賭博ノ用ニ供スルガ如キ、惡弊ノ極度ニ陷ルヲ憂ヘタ議案ノ

趣意トシカ解スルコトガ出來ヌ、其精神ナリトスレバ、此弊害ノアルコトヲ

公認スルコトニ陥リハシナイカ、ドチラカラ見テモ説明ニ矛盾スルヤウニ思

ヒマスカラ、其理由ヲ明ニシテ戴イタラ宜シイ

○政府委員(目賀田種太郎君) 左様考へナイノデス、ソレハ此伊呂波加留多、
歌加留多杯ト云フモノハ、是ハドチラモ遊ニ供スルモノダ、御承知ノ通伊呂
波加留多、歌加留多杯ハ、即此歌ヲ竝ベテ、ソレニ依シテ歌ヲ覺エルト云フ、
又其他ノ骨牌杯モ皆サウ云フ、多少無害ナル教育ヲ含ンタル如キ骨牌デアリ
マスカラ、或ル種類ニ於テハ其種類ガ種々ニナシテ居リマスカラ、即チ政府ノ
認許ヲ得タルモノハ、此限ニアラズトナシテ居リマス、唯今御質問ノヤウナ趣

意デハナインデアリマス

○高木正年君(二百五十三番) 私ハ此問題ハ、多少風紀上ニモ關係ヲ致シマ
スカラ、ソレ故一應質問ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、唯今東君ノ御質問モ
アリマシタガ、私ノ尋ねタイト思ヒマスノハ、政府ハ奢侈品トシテ骨牌ニ、一
種ノ禁止稅ランキモノヲ課スルト云フ趣意デアルト思ヒマス、一體禁止稅ト
云フモノハ、酒ノ如キ煙草ノ如キモノデ、一方ニハ國ノ收入ヲ増シ、他方ニ
ハ其收稅ニ依シテ、多少此間ニ國民ヲシテ節セシムル益ガアルノデアル、然ル
ニ骨牌ニ於テハ、國稅ヲ徵收シテモ毫モ其目的ハ達シナイノデアル、今一步
立入シテ此事ハ考ヘテ見ナケレバナラヌノハ、今東君ノ質問セラレタ如ク、歌
加留多、伊呂波加留多ノ如キモノニ對シテ課稅セヌトスルト、所謂賭博ノ用
ニ供スル花骨牌ニ對シテ、此稅ハ取ルトナリマスト、此稅ニ依シテ禁止ノ目
的ヲ達シナイノミナラズ、他方ニハ法律ヲ以テ之ヲ禁止シテアルモノニ對シ
テ、一方ニハ一種ノ稅ヲ課シテ之ヲ公認スルガ如ク、此間ニ一種ノ風紀上ノ
問題ヲ惹起スモノノト、私共ハ考ヘテ居リマス、ソレ故ニ果シテ此物ガ奢侈品
デアリ、之ヲ禁止スベキ程度デアルガ、先づ稅ヲ取ルト云フナラバ、寧ロ
花骨牌ト云フモノヲ禁止シテ、世ノ中ニ販賣ノ行ハレヌヤウニスルノガ、是
等ノ目的デアル、唯政府が國稅ヲ徵收スルト云フノ手段ニ之ヲ取ルトシマ
スト、一方ニハ國ノ收入ヲ増スガ如クナレドモ、他方ニハ風俗上ノ一種ノ問
題ヲ惹起スモノノデアル、此法ハ誠ニ簡單デアルガ、結果ハ恐ルベキモノト私
ハ考ヘテ居リマス、ソレ故ニ何故ニ政府ハ之ヲ花骨牌ヲ禁止シナイカ、稅ヲ
取ルトスレバ、此法律所謂刑法上ニ起ル、花骨牌ヨリ起ル犯罪ノ有無ニ附イ
テ、聯關シタ問題ヲ惹起スルコトヲ考ヘテ居ラヌヤウニ思ヒマスカラ、其邊
ニ附イテ明瞭ナル答辯ヲ得タイト、私ハ思ヒマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 高木君ニ申シマスガ、花骨牌ト云フノハ、本

法ノ範圍ノ一部ニ屬スルノデ、本法ハ尙ホ廣イノデアリマス

○望月長夫君(二百四十二番) 今ノ御答辯ニ據ルト——御答辯ナリ説明ニ附
ルト、政府ハ之ニ依シテ一ノ鞏固ナル財源ヲ得ヤウト云フ御考デアル……

○政府委員(目賀田種太郎君) 好簡ナル財源ト申シマシタ、好イ財源ト申シ
タノデ、鞏固トハ申シマセヌ

○望月長夫君(二百四十二番) 是ヲ好イ財源ト云フ意思ハ、少クモ今

日ノ狀態ヨリ獎勵スルト云フ御趣旨デアルト見テ、私が更ニ進シテ解釋ヲスルト、政

致シテ來ナイト思ヒマス、併ナガラ政府ガ本案ヲ出サレタ趣旨ハ、今言フガ

如ク稅源ヲ得ルト云フ御趣意ト解釋スル、ソレデ此本法ニ出テ居ル骨牌

——加留多ト云フモノハ、何處マデノ範圍ヲ含ンデ居ルカ「トランプ」ト謂ヒ、

花骨牌ト謂フモノハ、之ニ無論這入ルダラウ、サリナガラ今日デハ、殆ド人ガ

祕密ニ販賣シテ祕密ニナシテ居ル札デ、最モ廣ク行レテ居リマス、彼ノ株札、此

株札ト云フ如キモノハ、今日モ成ル程東京ノ真中ニハ、上方屋ト云フ公ノ

看板ヲ掲ゲテ居ルガ、地方ニ往ケバ株札ハ祕密デナケレバ、販賣シテ居ラヌ、

ソレカラ最モ多ク賭博ニ使ハル、賽ト云フモノガアル、是ハ全ク今日マデデ

見ルト、何處ニ法律ノ明文ガアルト云フ譯テナイケレドモ、實ハ製造モ禁ゼ

ラレテ居ル世ノ中ノ狀態ニナシテ居ル、ソレデ若シモ此骨牌ト云フモノガ總テ

サウ云フモノニ及ブモノデアルトスルト、今日マデハ實ハ祕密デ捕ヘテ賣ッ

テ、祕密デ買ツテ居ラムノ公認スルコトニ相成ラウト思フ、此骨牌ト云フ

モノハ、即チ今日マデ世人ガ公認シテ居ル「トランプ」ノ札、或ハ花札、即チ

八八ト云フモノニ使フ所ノ札ノ外ニ及ブモノデアルカ、即チ政府ハソレ等ヲ

取シテ財源ニスルト云フ御考デアルカト云フコトヲ承リタイ

○政府委員(目賀田種太郎君) 望月君ニ御答ヲ致シマスガ、本法ノ範圍ニ附

キマシテハ、地方ノ方言或ヘ其他ノ稱ヘヨリ種々ゴザイマスルデ、一概ニ

ハ申セマセヌガ、チヨット算ヘタ所テ十九程アリマス、唯今御舉グノ分モ這入

テ居リマス、ソレデ祕密販賣ト知フノモアルカ知レマセヌガ、唯今マデ取調べ

タ所デハ現ニ公然ト販賣シテ居リマス、其名稱ノ如キ公然販賣所ト書イテ

賣ツテ居リマス、ソレカラ賽ト云フモノハ是ハ骨牌デナイト思ヒマス、ソレ

故ニソレ等ノモノニ附イテ相當ノ課稅ヲスルハ、至極便利デアリ、一ノ財源

ニナルト云フ趣意デアリマス

○望月長夫君(二百四十二番) ドウ云フコトデ此法律デ支配スルノト、此法

律デ支配セヌノト區別スルカ

○政府委員(目賀田種太郎君) ワレハ二十一條ニ掲ゲテアリマスルガ、伊呂

波加留多、歌加留多其政府ノ認許……

○望月長夫君(二百四十二番) ワレハ分テ居ル

(恆松隆慶君「委員付託ニシタラドウデス」ト呼フ)

○政府委員(目賀田種太郎君) 言ヘト云フノデスカ、言ハズト宜イト云フノ

デスカ

(恆松隆慶君「委員會デ十分説明アランコトヲ望ミマス」ト呼フ)

云フハ、如何ナコトデアルカト、押詰メルト、航路ニ依ヅテ大ニ利益ノ増加シタ所ガアリ、又大ニ利益ノ減ジタ所ガアルカラ、此金額ニ動搖ヲ來シタノデアルト云フ答デアル、然ルニ今申スヤウナ事柄デアル、ソニ至ツテハ他ノ事柄ハ暫ク相當ノ調査モ出來、方法モ立ツテ居ルニシテモ、此航路補助ト云フコトニ至ツテハ、餘程粗漫ニシテ且餘裕アルモノト認メタノデアリマス、ソレデ初カラ違ツテ居ツタ、ドウ云フモノデ違ツテ居ツタカト云フニ、前ニ豫算ヲ組ンダツレガ其年度ニ命令ヲ下シテ會社ト契約ヲスルトキニ、其豫算ト實際トハ大ニ違ウタ、スルト、其豫算ナルモノハ増シタリ減ジタリシテ當テニナラヌ、實際ト餘程違フコトニナッタ、ソコデ之ヲ比較シタナラバ本年ノ豫算ノ目トハ違ツテ居タノデアル、然ルニ政府ガ其間違ヲ間違トセズ、豫算ヲ昨年立テタトキノ三目ニ分ッタ金額ト、其後ノ實行ト達フタノデアルト思ヒ詰メタコトデ、實ニ妙ナコトデアッタ、所ガ豈圖ランヤ調査スルト、サウデハナイ、斯ウ云フコトガ分ッタ位ノ話デアル、ソレデハ之ハ全體考ヘテ見ルト、此航路ヲ命令シ、此保護ヲ與ヘテ、以テ契約ヲスル事柄ニ附イテ、當ニ從前ノ儘ヲ繼續スルト云フコトガ主腦ニナッテ、此保護ナルモノガ果シテ此金額ガ適當スルヤ否ヤ、必要ナリヤ否ヤ、年ヲ逐フニ從ツテ、航海ノ進ムニ從ツテ、此金額ハ減ジ得ラル、コトガ出來ルヤト云フヤウナコトヲ、親切ニ鄭重ニ調査セズシテ、唯八十万圓ト云フ金額ヲ土臺ニシテ割付タ結果ガ、斯様ナ大イナ間違ヲ來シタコトデアラウト信ズルノデアル、若シ一昨日モ委員カラ此疑問ガ出ナカッタナラバ、大ナル間違ヲ目的トシテ定メル結果ニ陥ツテ居ツタノデアル、且又是ニ附イテハ餘程入込ンダコトニナッテ居ルノデ、是ハ數多ノ船舶ノ中ニ僅ニ一隻デアッタカ、或ハ一隻タカト云フテ、段々豫算委員會デ取調ヲ致シテ見ルト、是ハ三十年カラ斯ウ云中ノ一部分デアッタカ、ソレヲ省キマスト、陸軍ガ船積ノ一分ノ一ト云フモノヲ、平素使用スルコトニナッテ居ル、是ハ乗客荷物ト云フモノヲ、別段ニ賃錢ヲ總督府ノ業デアッタガ故ニ、即チ三十年度カラ五十一万四千五百四圓八十錢四厘ヲ、陸軍カラ商船會社ニ對シテ拂ヒヨツタ金デ、其儘總督府ニ移シテシマックエモノデアリマス、即チ陸軍ノ軍人貨物軍器ハ、即チ一面カラ無代價デ、即チ命令船舶デ乘載サセルト云フコトデアル、然ルガ故ニ二分ノ一一折半シト云フコトニ歸シタ、此調査ハ十分ニ聞カント欲スルナラバ、規定ノ十五日タ船積ヲ陸軍ガ占有スルコトニナッテ居ル、餘程入込ンダコトデアル、ソレデ音ミガ即チ三十年此方其陸軍ガ乗ツテ居ル人員貨物ハ、如何ナル價ヒアルモノデアルカ、價格ト爲ルモノデアルカト質問シタガ、調査ガシテナイカラ分ラヌ間ニ出來ベカラザルコトデアリマス、ソレデ餘程入込ンダ所カラ、斯様ナ保護ト云フモノガ成立ツテ來テ、其結果十分ノ調査ガ出来ズシテ、ソレデズン

ズン繼續シテ來タ、又總督府ニ於テモ八十万圓ト云フモノヲ押ヘテ割當テルト、斯ウ云フコトニナシテ居リマス、ソレヲ若レ之ヲ今一層十分調査ヲ致シ、或ハ從前ノ船舶ニ限ラズシテ、他ノ船舶ニ對シテモマサカ是等ヲ公ノ購買入札ト云フモノニセズトモ、相當ノ船舶ヲ持テ居ルモノニ對シテ、此命令條件ニ依ヅテ、即チ賃銀等ニ附イテ條約ヲ試ムルト云フコトニスルナラバ、八十万圓ノ中テ十六万圓位ノ減額ヲシテモ、航海上ニ少モ障碍ハナイト認メタ結果デアリマス、勿論政府カラ申スハ、即チ昨年ヨリ命令航路ヲ殖スノデアルト云フノデアリマスガ、ソレニ當テベキ額ハ別ニ定メスガ、三万八千圓餘ト云フモノヲ、昨年ヨリ別ノ航路ニ充テルト云フノデ、ソレハ福建省ヨリ淡水杯ニ來ル航路ニ附イテスルノデアリマスガ、ソレハ從前ノヨリ少シ遡ツタ僅ノ航路デアル、四十噸トカ五十噸トカ云フヤウナ船ヲ以テ航海ヲシヨル、ソレヲ取テ以テ及サウトスルノデアルカラ、是ハ宜イコトニ、思フノデアルガ、然レドモソレ位ノモノハ命令航路ニスルト雖モ、尙ホ以テ此金額ハ過度ニ過ギルト云フ所カラ、以テ、即チ今申ス所ノ金額ヲ減額ヲ致シマシテ、決シテ是ハ從來ノ轍ニ、又從來ノ會社、從來ノ船舶ト云フコトニ泥ミマセズシテ、當局者ガ之ヲ施スニ、親切ニ宣シキヲ得マシタナラバ、此金額ヲ減ズルト云フコトハ、決シテ差支ナイト云フコトハ、吾ミハ固ク信ズルノデアリマス、デ本案ニ就キマシテノ即チ修正ハ、ソレノミデゴザイマシテ、其他ハ歲入歲出共ニ原案ヲ認メタノデゴザイマス、ソレヨリ致シテ、第十六デアリマス、追第一號豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲナスヲ要スル件、本案ニ附キマシテハ、第一トアリマスル此「臺灣總督府特別會計ニ於テ臺灣官設鐵道事業費十万五千圓マテヲ限り明治三十六年度ニ於テ云々ト云フコトガゴザイマス、是ハ原案ノ通可決致シマシテアリマス、次ノ第二デアリマス、即チ今申シマシタ所ノ航海補助ヲ、向フ五箇年間之ヲ契約シヤウト云フノ事件デゴザイマス、是ハ委員會ニ於テハ即チ無用ナリト致シテ、否決致シマシテゴザイマス、其理由ハ大體此近年此航海ニ於テ、種々ナ補助ヲ致シマシタ結果ハ、殊ニ最モ此ノ航海ニ附イテ補助ヲ致シマシタ結果ハ、即チ吾ミニ於テハ失敗ニ陥テ居ルト云フコトヲ、常ニ感シテ居ルノデゴザイマス、此航海ノ補助ニ附イテ失敗ニ陥ツタト云フ事柄ハ、事業其物ガ失敗ニアラズシテ、即チ補助ノ過當ナコトヲ、相當ニ進行致シテ居ルニ相違ゴザイマセヌ、併シ其結果ハ圖ラザリキ、過當ノ結果、過當ノ結果ト云フハ何ヲ以テ謂ヒマスト云フト、其後ノ會社等ニ依ツニ傾イタ結果デアリマスルカ、長キ年限ヲ定メテ皆補助ヲ致シマシタ結果ハ、事業其モノハ金ガ澤山ニ補助シテアル、過當ナ補助ガシテアリマスカラ以テ、テ調べテ見マスレバ、先づ言ツテ見レバ、一割ノ配當ガアレバ宜イト云フコト位ニ見テ、之ヲ補助致シタルモノガ、一割半、二割、二割五分ト云フ配當ヲ爲シタルト云フ事柄ハ、今ノ會社ノ勉強又ハ其事業ノ幸運トハ申シナガラ、第一ノ主眼左様ナコトニ至ツタト云フコトハ、一方カラ云ヘバ誠ニ御目出度話シ

ニアリマスルガ、又一方此國家カラ補助スルト云フ點カラ云フテ見マスルト、過當ノ失敗ト云フ位ニ感ジテ居ルノデゴザイマス、故ニ臺灣ノ五箇年ノ繼續ニ至リマシテモ、殊更今申スルヤウナ、是等ニ至シテハ全ク不継ナリ粗漫ナリト云フコトハ、公言シテ憚ラザル所デアル、斯様ナ元ト成立カラ成タルモノヲシテ、數年間ノ繼續ヲスルノ必要ハナイ、斯ウ認メタ所以デゴザイマシテ、此事ニ附イテハ即チ當局者ニ於テモ、一昨日ノ豫算總會ニ於テ、敢テ主張ハ致サレマセズシテ、即チ繼續ハ最早致方ノナキコトデアル、其繼續ト云フコトニ致シマシテモ、種々ノ理由モアリマシタケレドモ、當局者自ラガ最早繼續ト云フコトハ、致方ノナイコトデアルカラ、セメテハ一箇年トシテ、金額ハ原案ノ金額ニ戻シテ吳レト云フコトガアツタ位ニアリマスカラ、其理由ハ今此處デ再陳ハ致シマセヌ、右三案ニ就キマシテ調査致シマシタ經過及結果ハ、右様申シマスルヤウナ次第デゴザイマス
○議長(片岡健吉君) 格別御質問モナク、又修正説モ出マセヌカラ……

ナリマシタ、此結果ハドウナリマスカト考ヘマスニ、折角計畫シマシタ所ノ
新擴張ノ航路ヲ、延スト云フコトノ出來ナイノミナラズ、既設・航路即チ臺
灣ノ内地間、臺灣沿岸、臺灣清國間ノ、此航路ノ中ニ向テ、一艘若クハ二艘
ノ船ヲ減ジマスト云フコトニナラヌト、逆モ十六万圓ノ減額ニナツタ以上ハ、
既往ノ通り航路ヲ續ケルト云フコトハ、實際ニ出來惡イコトデアラウト思ヒ
マス、或ハ委員會デハ此航路ヲ競争契約ミタヤウナコトニデモヤツタナラバ、
安ク請負人ガアラウト云フヤウナ御議論モアリマシタガ、元來此臺灣航路ニ
使ツテ居リマス所ノ船ノ數ト云フモノハ、十五六艘ノ汽船デアリマシテ、是ダ
ケノモノヲ競争契約ニ付シタ所ガ、他ニ請負ヲシャウト云フ者ハ幾干モアリ
ハシマイト思フノデス、若シ一二アリマシタ所ガ、矢張其間ニ於テ此既往ヨ
リモ安ク受負ツテ、既往ヨリモ一層改良シタ所ノ航路ヲ續ケルト云フコトハ、
逆モ當局者ハ見込ハアリマセヌノデアリマス、就キマシテハ、此削減ノ結果

(政府委員臺灣總督府事務官峽謙齊君演壇ニ登ル)

○政府委員(峽謙齊君) 唯今豫算委員長カラ御報告ニナリマシタ所ノ、航海補助ノ削減ニ附キマシテ、一言述ベタイト考ヘマス、此航海補助費ノコトニ於キマシテハ、是ハ既ニ戰爭時代カラ引續キマシテ、今日マデ繼續シタ譯アリマスガ、元來三十五年度ニ於キマシテ、總督府ノ計畫ト申シマスノハ、是マデ八十万圓ノ補助ヲ與ヘテ居リマシタ、其補助ノ中ノ節約ノ出來得ルダケノモノヲ節減致シマシテ、サウシテ此三十五年度ニハ廈門石媽閣、廈門同安間、廈門安海間、ノ此三航路ニ向ジテ航路ヲ延バシマシテ、其矢張八十万圓デソレダケノ航路ヲ延バサセ、又五箇年間ノ契約ヲシマシテ、サウシテ此陸上ノ設備、即チ荷揚場、將其他此倉庫等ノ設備ヲ、十分ニヤラシタイト云フ

ハ、必々航路ノ一二ヲ續ケルト云フヨリ外ニ致方ハナイト思ヒマスガ、唯今内地ト臺灣トノ貿易ハ、年々増進ノ趨勢デアリマシテ、折角ニ發達シツ、アル所ノ貿易ヲ、此航路ヲ減ズルガタメニ、減少ノ結果ニ至ラシムルト云フヤウナコトニナリマシタナラバ、十六万圓ノ減額ハ、十六万圓以上ノ損益ヲ見ルコトニナラウト考ヘマシテ、當局者ハ甚ダ憂慮シテ居リマスガ、願ハクハ此金額ニ附キマシテハ、ドウカ復活セラレンコトヲ希望致シマス。

○議長(片岡健吉君) 採決ヲ致シマス、此議案ハ一括シテ議題ニナシテ居リマスガ、採決ハ一案毎ニ致シマス、此議事日程ノ順序ニ依リマシテ、第一號明治三十四年度歲入歲出總豫算追加案、是ハ豫算委員會ニ於テモ修正説ガアリマセヌ、原案ニ御異議アリマセヌカ

希望ヲ以テ、豫算ヲ提出致シマシタノデアリマス、且唯今豫算委員長カラモ辯ぜラレマシタ通、此廈門石媽、廈門同安、廈門安海ノ三航路ハ、其航路トシテハ僅ナモノニ相違ハナイデアリマスガ、是ハ飢ニ此清國臺灣間ノ航路補助トシテ、是マデ米國ノ「トクラス」會社ト云フノガ、淡水廈門間ノ航路ヲ占

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(片岡健吉君) 御異議 ガナケレバ 原案通決 ンマス、其次第一號明治
三十五年度歲入歲出總豫算追加案、是モ豫算委員會ニ於テ修正説ガアリマセ
ヌ、原案通御異議アリマセヌカ

有シテ居タノデアリマス、此占有ヲ商船會社ヲシテ競争セシメ、是ノ海上權ヲ占ムルノ必要ガ、ドウシテモ將來ニアルト云フモノデ、始テ此廈門清國間ノ航路ニ補助ヲ與ヘルコトニナシテ、漸クニ淡水廈門間ノ競争ト云フモノハ、先づ今日ハ打勝ヲタ姿ニアリマス、然ルニ此淡水廈門ニ續キマシテ、廈門マデ貨物ヲ運出ス所ノ、即チ石嫣安海同安ト云フ此三航路ハ、淡水廈門間ノ航路ヲ占ムル上ニ附イテ、最モ此三ツノモノヲ占メネバ、到底之ヲ占有シタ所ノ效果ヲ見ルコトが出來ナイト考へマシテ、本年度ハ既定ノ即チ前年度ノ金額ノ中ヲ以テ、此所マデ航路ヲ延バシタイト云フ所ノ、計畫ニアリマシタノデアリマス、然ルニ豫算分科會ニ於キマシテハ、此五箇年ノ契約ハ否決サレマシタガ、金額ダケハ前年度通リニ、一旦可決ニナリマシタノデアリマスガ、

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス、次ハ特第一號明治三十五年各特別會計歳入歳出豫算追加案、是ハ今委員長カラ航路補助ノコトニ附イテ修正説ガアリマシタ、豫算委員會ノ委員長報告通デ、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス、追第一號豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲナスヲ要スル件、是ハ唯今委員長報告ニハ第二ガ削除ニナツテ居リマス、是モ委員長報告通デ、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

委員總會ニ於キマシテ、即チ此八十分圓ノ一割十六分圓ト云フモノヲ削減ニ

○議長(片岡健吉君) 御異議がナケレバ其通決シマス。議事日程ノ第十七地

方學事通則中改正法律案貴族院送付第一讀會ノ續、委員長報告——根本正君

第十七 地方學事通則中改正法律案(政)

第一讀會ノ續(委員長)
(報告)

(根本正君演壇ニ登ル)

○根本正君(二百八十四番) 地方學事通則中改正法律案ノ委員會ノ報告ヲ致シマス、本案ハ政府提出貴族院送付ノ案デアリマシテ、此法律中「小學校」ト云フ字ヲ「學校」ト改ムル、誠ニ單純ナル案デアリマスル、其譯ハ基本金ヲ積立テルコトニ附イテ、是マテ法律中ニ小學校ト云フ文字デアル、故ニ幼稚園トカ、或ハ補習學校デアルトカ云フ處ヘハ、此法律ヲ適用スルコトガ出來ナカッタ、ソレ故ニ茲ニ改正シテ、汎ク學事ヲ獎勵スルト云フ意味ニナル譯デアリマス、ソレ故ニ委員會ヲハ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段報告致シマス

○恆松隆慶君(二百二十四番) 本案ハ讀會省略デ、確定ナランコトヲ望ミマス
○議長(片岡健吉君) 讀會省略ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、讀會省略スルコトニ致シマス
地方學事通則中改正法律案

(恆松隆慶君) 委員長報告通「ト呼フ」
○議長(片岡健吉君) 委員長報告通デ、御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員長報告通決シマス、讀事日程ノ第十八議案ノ朗讀ヲ省略致シマス根本正君

確定議

第十八 幼者飲酒禁止法案(根本正君外四名提出) 第一讀會
幼者飲酒禁止法
第一條 満十八年以下ノ幼者タルヲ知リテ酒類ヲ飲用セシメ若ハ飲用ノ爲ナルコトヲ知リ酒類ヲ販賣スルコトヲ得ス
第二條 前條ニ違反シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(根本正君演壇ニ登ル)

○根本正君(三百八十四番) 諸君、茲ニ幼者飲酒禁止法案ヲ提出致シマシテ、其理由ハ既ニ御手許ニ回ダテ居リマスガ、尙ホ其不足ノ分ヲ一二述べマスコトニ致シマス、實ニ此國家ニ於テ最モ大切ナルモノハ、國家ノ父母タル者デアリマスル、其父母トスル者ハ何デアルカト云ヘバ、即チ小學校ノ幼者デアル、然ルニ此幼者ニシテ、我邦ニ於テハ未ダ此酒ヲ飲ムト云フコトニ附イテ、其儘ニナシテ法律デ禁シテアリマセヌ、此法案ニ附キマシテハ、昨年モ

出シテアリマスルガ、二讀會マデ通過致シマシテ、三讀會デ少々ノ違デ倒レマシタ、偕テ此法案ノ事ニ附キマシテ、其提出ノ理由ヲ聊カ述ベマスルガ、昨年ハ專ラ此亞米利加ノ法令ヲ引イテ、提出シタノデアリマスル、サウスルト此議員中ニ於テ、亞米利加ハモウサウ云フコトハアルガ、歐羅巴ニハサウ云フコトガドウモ少イカラト云フヤウナ、反對說ガアリマシタ、ソレ故ニ私は此歐羅巴ヲ調査シマシタ、其調査ハドウ云フ所カラ起シタカト云ヘバ、即チ我衆議院ノ此圖書館ニ「ヘーブルスマニア」ト云フ、即チ英吉利ノ政治必携ト云フ本ガ昨年出來タ、其本ヲ見ルト英吉利ヲハ、昨年ノ八月中、即チ此幼者禁酒法案ト云フモノガ通過シテ、本年一月一日ヨリ是ガ實施サレタ譯アリマス、故ニ獨リ亞米利加ノミニナラズ、英吉利ニ於テモ、今日ハ之ヲ履行シテ居ル譯デアリマスル、ドウ致シマシテモ、今日世界列強ノ間ニ立ツテ、此國ヲ盛ニシマスルト云フニハ、ドウシテモ此青年即チ幼者ヲシテ、本當ノ人民トル外ニ良法ハアリマセヌ、ソレ故ニ此法案ヲ提出シタ譯デアリマス、實ニ今日ノ青年ノ有様ヲ見マスルト云フト、地方カラ東京へ出テ、或ハ大阪へ出ル、其他京都ト云フヤウナ繁華ナ地方ニ參ル所ノ學生ニシテ、百人中ノ七八分八分、即チ七八十人ト云フモノハ、ドウ云フ害ヲ被ルカト云ヘバ、此酒ノ害デアル(「短簡々々」ト呼フ者アリ)實ニ酒ノタメニ、折角親カラ寄越シタ所ノ學費ト云フモノモ本當ノ途ニ使フコトナク倒レルモノガ實際アリマス、其一ツノ例ヲ舉ゲデ見マスルト、私ノ知リ居ル者デアツテ、是ハ或ル官立學校ニ這入シタ、官立學校ニ這入シテ年十七歳位デアツタ、遂ニ初ハ蕪麥屋ヘ往シテ飲ミ、其次ハ牛店デ二杯飲ミ、其次ハ料理店ヘ往シテ四杯五杯ト云フヤウニ飲ンデ、其終ニニハ遂ニ東京ノ町端レニ往シテ一泊二泊ト云フヤウナコトニナシテ、其官立學校ヲ退校サレル譯ニナシタ、シテ其人ハ今日デドウ云フ有様デアルカト云ヘバ、身體ニ噴出ガシテ、如何トモスルコト能ハズ、且ツ其家ト云フモノハ困窮ナルガ故ニ、保證人一人ガ九十圓ノ辨償ヲシタト云フコトガ明ニ分ダテ居ル、其事ニ附イテ詳シク御入用ナラバ、私ハ委員會デ申シマシテモ宜シイト思フ、官立學校デ能ク分ダテ居ル、サウ云フ風ナコトガ續々アルノデゴザイマス、故ニ今日日本帝國ニ於テ、眞ノ大和魂ノアル國民ヲ擁ヘヤウト思フナラバ、是非此青年ノ酒ト云フモノヲ禁ジテ、即チ今日最モ世界ニ於テ富ミ且シ貿易ニ長ジテアル所ノ亞米利加又此英吉利ノ如キ、即チ本年一月一日ヨリ是ガ實施サレテアル譯デアリマス、ドウカ日本帝國ニ於キマシテモ、此法案が通過シテ、五百万以上ノ青年ガ、眞ニ國ノタメニ勤ラク人民ト爲ルコトヲ、私ハ希望スルモノデアリマス、ドウカシテ若モ此法案ガ成立マスレバ、是ヨリ十年ノ後、即チ今日ヨリ十年六箇月過ギマスレバ、即チ再ビ條約改正ト云フモノヲシナケレバナリマセヌ、其時分ニ至シテ矢張今日ノ如キ有様デ、落第ヲ思ヒマス、ソレ故ニ此十年先キノ日本ノ有様ヲ考ヘマシテ、平均ニドウカ日本國民ガ、實ニ此人格アル所ノ人ヲ造リタイト思フ、實ニ此立法者トシテ一

番大切ナル所ハ、愛國ノ民即チ忠君ノ民、之ヲ造リマスニハ即チ平均ニ、此人民ガ善クナラナケレバナラヌ、ソレニハドウ致シテモ、幼者即チ小學校ニ、學校ニアル所ノ青年ガ、十分ニ學ブコトヲスルヤウニシタイト私ハ思ヒマス、ソレニ附キマシテ、此處ニ理由書ガアリマス、又此處ニ調べタ所ノ書類モ歐羅巴カラ、實際手紙ヲ受取りマシタリ、英吉利ノ議員カラノ手紙モアリマス、其他英吉利領分ノ加拿大地方、或ハ濱州地方ノ法律モ出來テ居リマス、此等ニ附イテ、一々説明ヲ致シマスコトハ、却テ煩ハシウゴザイマスカラ、是ハ議長ノ御許ヲ得テ、後トテ速記ニ掲ゲルヤウニ致シタイト思ヒマス、ドウカ諸君、本件ノ幼者飲酒禁止法案ニ、御賛成アランコトヲ願ヒマス〔參照〕

幼者飲酒禁止法案理由書

幼者ノ身體各部ノ組織ハ未タ完成セサルヲ以テ「アルコール」ノ侵害ヲ受クルコト多大ナリ其ノ最患フヘキモノハ全國幾萬ノ學生カ飲酒ノ爲其ノ目的タル學業ヲ成ス能ハサルニアリ是レ文明諸國カ幼者ノ飲酒取締ニ關シ特ニ嚴重ナル規定ヲ設クル所以ナリ

茲ニ昨年八月十七日英國議會ヲ通過シ本年一月一日ヨリ施行セル幼者酒類賣買取締法及其ノ他殖民地ニ於ケル幼者禁酒法ニ關スル條項ヲ摘載シ以テ參照ニ資セムトス

英國幼者酒類賣買取締法(一千九百二年八月十七日可決)

英國皇帝陛下ハ貴族院及衆議院ノ協賛ヲ經タル幼者酒類賣買取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 千八百八十六年三月一日发布セラレタル幼者酒類賣買取締法ハ之ヲ廢棄ス

第二條

酒類賣買業免許ヲ有スル者酒類ノ何タルヲ問ハス情ヲ知テ滿四十一年以下ノ幼者ニ之ヲ販賣若ハ交付スルトキハ又ハ人ヲシム付スルトキハ又ハ人ヲシテ該幼者ニ販賣若ハ交付セシムルトキハ四十岁以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五磅以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五磅以下ノ罰金ニ處ス

第三條

何人タルヲ問ハス酒類ヲ得ヘキ目的ヲ以テ酒類ノ販賣セラレ若ハ交付セラレ又ハ配賦セラル場合ハ前項ノ罰金ニ處ス但シ販賣ハ情ヲ知テ滿十四年以下ノ幼者ヲ使ニ送ルコトヲ禁ズシ犯ス者ハ前項ノ罰金ニ處ス但シ販賣交付又ハ配賦セラルヘキ酒類若前項ノ如ク器物中ニ封印セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條

酒類賣買業免許ヲ有スル者ハ酒類ノ交付者トシテ家族、僕婢、雇人等ヲ使用スルコトヲ得

此ノ法ニ於テ「松」ト稱スルハ塞子ノ種類ノ木タルト硝子タルト其ノ他ノ物體タルトヲ問ハス總テ之ヲ松ト稱スルモノトス
テ施行セラレタル酒類免許條例、蘇格蘭ニ於テハ千八百七十二年ヨリ同七十四年マス、酒類免許條例、愛蘭ニ於テハ千八百三十三年ヨリ千九百年マテ施行セラレタル酒類免許條例ト同モノトシテ解釋セラルヘキモノトス

第五條

此ノ法ニ於テ「松」ト稱スルハ塞子ノ種類ノ木タルト硝子タルト其ノ他ノ物體タルトヲ問ハス總テ之ヲ松ト稱スルモノトス
テ施行セラレタル酒類免許條例、蘇格蘭ニ於テハ千八百二十八年ヨリ同九十七年マテ施行セラレタル酒類免許條例、愛蘭ニ於テハ千八百三十三年ヨリ千九百年マテ施行セラレタル酒類免許條例ト同モノトシテ解釋セラルヘキモノトス

參考書

余義ニ幼者禁酒法案ニ第十五議會ニ提出シ不幸ニモ第三讀會ニ於テ破棄トモ、尙一層完全ノ法案ヲ提供セシカ為メ歐米各國ノ飲酒取締ニ關スル現行法ヲ調査シ且ツ歐米ノ知友ニ宛テ數通ノ

此ノ法ヲ稱シテ一千九百一年ノ幼者酒類賣買取締法ト云
英國皇帝陛下ハ貴族院及衆議院ノ協賛ヲ經タル酒類賣買禁止法案ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 千八百七十二年發布ノ酒類免許條例第七章ノ諸條項並ニ一千八百八十六年發布ノ幼者酒類賣買取締法ハ之ヲ廢棄ス

第二條

酒類賣買業免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若ハ交付スルトキハ又ハ人ヲシテ販賣シ若ハ交付セシムルトキハ該酒類カ賣買ノ場所ニ於テ消費セラルト否トニ拘ラス四十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五磅以下ノ罰金ニ處ス

第三條

前條ニ依リ訴訟ノ提起セラレタルトキハ此ノ法ハ一千八百七十二年ヨリ同七十四年マテ施行セラレタル酒類免許條例ト同一ノモノトシテ解釋セラルヘキモノトス

第五條

此ノ法ハ何年何月何日ヨリ施行ス

英國諸領地ノ酒類賣買ニ關シ幼者ニ酒類ヲ販賣スル者ヲ罰スル法律ハ大同小異ナルヲ以テ茲ニ之ヲ概シテ幼者ノ年齢ト罰金ノ額ノミヲ略記スレハ左ノ如シ

第六條

「ノーバースコシア」(幼者年齡二十一年以下)罰金五十弗

「ブリティッシュエドワード」島(未成年者)
トキ禁錮一箇月、再犯罰金五十弗、免許狀沒收、罰金ヲ納付シ得サルトキハ禁錮二箇月

「オランダリヲ」(幼者年齡二十一年以下)罰金十弗以上五十弗以下

「セントチルス」(幼者年齡十五年以下)罰金十弗、酒類賣買業六箇月停止、再犯ハ罰金二十弗、酒類賣買免許狀沒收

「タスマニア」(幼者年齡以下)罰金二十弗以下

「トリニダット」(幼者年齡十二年以下)罰金五磅以下

「ダーラム、アイランード」(幼者年齡六岁以下)罰金十磅以下、再犯以上ハ罰金二十弗以下

「ヴィクトリア」(幼者年齡十六年以下)罰金二十弗以下

前記法律ノ統計、英國諸領地ニ於テ幼者ニ酒類ヲ販賣スルコトヲ禁止スル諸州ハ約三十箇ニシテ此ノ内幼者ノ年齡十六年以下ニ定ムルモノ十二箇、十五岁以下六箇、十八岁以下三箇、未成年者三箇、二十一年以下十四年以下十二年以下各二箇宛ナリ又罰金ハ平均五磅乃至十磅ナリ

詰問狀ヲ發シタルニ英國「ロビンソン・サッター」氏ノ回答書類ハ大ニ參贊ニ資スヘモノアルヲ以テ
不敢左ニ之ヲ抄譯ス

「サッター」氏ノ返翰

拜啓時下益々御活移奉賀候陳者本年六月御授函ノ貴書ニ拜達シ早速御返事可致ノ所當時我英國議會
ニ於テ幼者ニ對スル酒類取締法案ノ議論中ニ之レ有リ故ニ同法案ノ可否孰レニカ決定セラレルヲ待
テ御返答仕ラント存シ今日迄延引致シ候段平ニ御海容被下度候扱テ別紙甲號ハ本月十七日(八月)英
國議會ニテ可決セラレタル幼者酒類賣取締法ニ有之別紙乙號ハ同法ノ提出原案ニ有之即チ原
案ニ比スレハ確定法律ノ寛大ニ失スル所アルハ吾人ノ甚遺憾トヘル所ニ御座候
社會革新ニ教育普及ノ方法ニ付キ御諮詢相成り承知仕候但シ御質議ノ諸點尙一層特殊的ニ御開示
相成リ候ハ、拜答ノ便宜ヲ得申候

小生ハ過般ノ選舉ニ破し目下ハ衆議院議員ニ無之候間此段併セテ御承認被下度候敬具

千九百一年八月三十日

日本東京芝公園第十三號

根本 正殿

英國倫敦ニ於テ
「ロビンソン・サッター」頼首

英國ニ於ケル幼者酒類賣買禁止ニ關スル實況

英國希望協會ノ運動十有五年前即チ一千八百八十六年五月十五日ヲ以テ英國希望協會ハ幼者酒類賣

買禁止ニ關スル意見書一百万部ヲ印刷シテ之ヲ全國ニ配布シ大ニ輿論ヲ喚起シタリシカ同書ノ主意

ハ幼者ヲ使トシテ酒類ヲ購求スルトキハ幼者ノ身體上及精神上ニ間接ニ直接ニ非常ノ惡影響ヲ及ボ

スモノアルカ故ニ幼者ヲシテ酒類ヲ購求セシムルコトハ斷然禁止セサルヘカラスト云フニ在リ

「コニーピール」氏ノ提出議案衆議院議員「コニーピール」氏ハ一千八百八十六年ハ議會ニ於テ幼者ニ

酒類ヲ賣ルコトヲ禁止スルノ法案ヲ提供セリ當時議院内外ノ同志者ハ右法案ヲ通過セシメンカ爲メ

大ニ運動シタレトモ不幸ニシテ議會ノ委員會ニ於テ修正セラレタル即チ原案ニ於テハ酒類賣買ノ場

所ニ於テ該酒類ノ消費セラルト否ト問ハス幼者ニ酒類ヲ賣ルコトハ一切之ヲ禁止スルノ法案ナ

リシニ修正案ハ酒類賣買ノ場所ニ於テ該酒類ノ消費セラルヘキ場合ニ限り之ヲ幼者ニ賣ルコトヲ禁

止スルコト、セルカ故ニ幼年ハ父兄等ノ爲メニ酒類ヲ賣テ之ヲ持チ去ルコトヲ得ルナリスル不

完全ノ修正案ニテハ固ヨリ有志家ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルコト以テ禁酒同盟會希望協會其他ノ同

志者ハ相一致シテ貴衆兩院ノ各議員ニ意見書ヲ送リ「コニーピール」氏ノ原案ヲ復活セシメントコトヲ

請求シタレトモ遺憾ナカラ貴衆兩院ハ委員會ノ修正案通り可決セリ即チ左ノ如シ

酒類取締法(修正案)一千八百八十六年可決

酒類販賣業免許ヲ有スル者情ヲ知テ滿十三年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ其賣買ノ場所ニ於テ使

用消費セシムルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス

右ノ法律ハ議會ニ於テ可決セラレタル後直ニ施行セラレタルモ格別善良ナル結果ヲ奏スルコ

トヲ得サリキ何トナレハ該法律ノ下ニ於テ幼者ハ酒類賣買ノ場所ニテ飲ムコトヲ禁セラル、

ニ止リ他ヘ携帶シ行クコトハ自由ナルカ故ニ幼年飲酒禁止ノ大目的ハ斯ル不完全ナル法律ニ依

レタリ

「ハルデン」氏ノ議案 同氏モ亦一千八百九十六年ヲ以テ幼者飲酒禁止法案ヲ議會ニ提出シタレトモ是

亦成功セサリキ

其後ノ形況 是レヨリ先キ禁酒ヲ主張スル各種團體竝ニ慈善有志家等ハ前記ノ如ク數百万部ノ意見

書又ハ雜誌ヲ全國ニ頒布シ或ハ演説ニ講話三遊說ニ百方手段ヲ盡シテ酒類ノ弊害ヲ人民ニ知悉シメ

タルヲ以テ飲酒上ニ於ケル諸種ノ惡習慣漸ク改善セントスルノ狀況ヲ示シ殊ニ幼者ヲ使トシテ酒ヲ

買ハシムルノ惡習著シク減少シ從前夜ノ十一時頃迄續々トシテ幼者カ酒買ヒニ往來セル街衢モ近來

ハ晚方ヨリ此ノ如キ兒女ノ集影ヲ見サルニ至レリ又夜間兒女ヲ使ニ出スノ結果ハ兒女ノ朝寝ト爲リ

各團體ノ運動希望協會禁酒同盟會幼者飲酒禁止法案等ノ諸團體ハ一千八百九十二年十月更ニ

一百萬部ノ禁酒意見書ヲ印刷シテ之ヲ全國ニ配布シ酒類ノ弊害ヲ國民ニ知悉シテ改進セントスル

謂「コニーピール」氏ノ原案ヲシテ議會ヲ通過シメントセリ然レトモ今屆王亦議會ニ於テ否決セラ

レタリ

「ハルデン」氏ノ議案 同氏モ亦一千八百九十六年ヲ以テ幼者飲酒禁止法案ヲ議會ニ提出シタレトモ是

亦成功セサリキ

其後ノ形況 是レヨリ先キ禁酒ヲ主張スル各種團體竝ニ慈善有志家等ハ前記ノ如ク數百万部ノ意見

書又ハ雜誌ヲ全國ニ頒布シ或ハ演説ニ講話三遊說ニ百方手段ヲ盡シテ酒類ノ弊害ヲ人民ニ知悉シメ

タルヲ以テ飲酒上ニ於ケル諸種ノ惡習慣漸ク改善セントスルノ狀況ヲ示シ殊ニ幼者ヲ使トシテ酒ヲ

買ハシムルノ惡習著シク減少シ從前夜ノ十一時頃迄續々トシテ幼者カ酒買ヒニ往來セル街衢モ近來

ハ晚方ヨリ此ノ如キ兒女ノ集影ヲ見サルニ至レリ又夜間兒女ヲ使ニ出スノ結果ハ兒女ノ朝寝ト爲リ

從テ毎朝小學校へ出席スル者ノ數ヲ減シ此弊害ハ就中下層社會ニ於テ甚シカリシモ近來幼者ヲシテ
夜間使ヘセシムル惡習ノ大ニ減少セルカ爲メ自然勤學兒童ノ數ニ増加ヲ來シタリ一小習慣ノ改良ト
雖トモ其成績此ノ如ク著明ナルカ故ニ若シ吾人ノ熱望ヘル如ク幼者ノ飲酒ヲ全ク嚴禁シ幼者ニ酒類
團體ワ初々有志諸士ハ爾來「ロンドン」、「マンチエスター」、「リバプル」、「ダブリン」等ノ諸都會ヲ中
心トシテ禁酒運動ヲ繼續シツアルヲ以テ「コニーピール」、「ハルデン」諸氏ノ法案ハ不幸ニシテ破レ
タリト雖トモ是等運動力間接ニ直接ニ好果ヲ奏セルコト夥ナシトセス

其他ノ運動 各寺院諸教會、市會、町會幼者保護會、學務委員會等ハ一方ニ於テ政府及議會ニ向テ禁
酒運動ヲナスト同時ニ他方ニ於テハ酒屋運動ヲ開始シ全國ノ酒類販賣營業免許ヲ有スル者ヲ訓戒シ
テ幼者ニ酒ヲ賣ルヘカラサル理由ヲ説示セリ

禁酒運動ノ反對者由來實業家ト稱スルノ徒ハ唯是レ我田引水の私利我慾ノ輩ノミ彼等ノ眼中ニハ
唯金錢アルノミ彼等ハ幸運附合ノ説ヲ捏造シテ内務大臣及議會ニ宛テ幼者ニ酒類ヲ販賣スルモ敢テ
弊害ナキ旨ヲ具申シタレトモ固リヨー顧ノ價値タモナキモノトス

調查委員會 禁酒運動益々激甚ヲ加フルニ從テ政府モ之ヲ默視スルヲ得ス即チ調査委員二十四名ヲ
任命シテ幼者ニ酒類ヲ賣ルコトニ由テ生スル所ノ弊害ノ度如何ヲ調査セシムルコトハナレリ

調査委員會ノ報告 該報告書ハ實ニ數千頁ノ記事ヨリ成ルモノナルカ各頁悉ク幼者ニ酒ヲ賣ルノ
弊害ヲ證明スルモノニ非サルハナシト云フモ敢テ過言ニ非ス又該報告ハ多數者ノ意見ト少數者ノ意見
見ト甲乙二種ヨリ成ルモノニシテ二種共ニ滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルヲ以テ弊害アルモノト
認定セリ但シ委員二十四人ノ内四名丈ヶハ多數者及少數者ノ意見ニ反對シ幼者ニ酒ヲ賣ルモ全ク弊
害ナシトノ意見ナリシカ此四名ハ即チ例ノ實業家中ヨリ挑拔セラレタル委員ナレハ彼等カ弊害ナシ
ト言フモ無理ナラサル次第ナリ

(甲) 多數者報告 該報告書ハ實ニ數千頁ノ記事ヨリ成ルモノナルカ各頁悉ク幼者ニ酒ヲ賣ルノ
弊害ヲ證明スルモノニ非サルハナシト云フモ敢テ過言ニ非ス又該報告ハ多數者ノ意見ト少數者ノ意見
見ト甲乙二種ヨリ成ルモノニシテ二種共ニ滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ルヲ以テ弊害アルモノト
認定セリ但シ委員二十四人ノ内四名丈ヶハ多數者及少數者ノ意見ニ反對シ幼者ニ酒ヲ賣ルモ全ク弊
害ナシトノ意見ナリシカ此四名ハ即チ例ノ實業家中ヨリ挑拔セラレタル委員ナレハ彼等カ弊害ナシ
ト言フモ無理ナラサル次第ナリ

(乙) 少數者報告

酒類賣買ノ場所ニ於テ該酒類ノ使用消費セラルト否ト問ハス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ル
コトハ一切之ヲ禁止スヘシ又該年齡ノ幼者ヲ賣買ニ遭リタル者ハ之ヲ賣リタル者ト同罪ニ處ス
ヘシ

(乙) 少數者報告

酒類賣買ノ場所ニ於テ該酒類ノ使用消費セラルト否ト問ハス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣ル
コトハ一切之ヲ禁止スヘシ又該年齡ノ幼者ヲ賣買ニ遭リタル者ハ之ヲ賣リタル者ト同罪ニ處ス
ヘシ

即チ見ルヘシ少數報告者ハ幼者ヲ賣買ニ遭リタル父兄ヲハシマリタル者ト同罰ニ處スルノ意見ヲ
缺クト雖モ幼者ヲシテ酒ヲ買ハシムルノ弊害ハ少數者多數者ノ共ニ等シク認定スル所ナルヲ

法律改正ノ必要 前記二十四名ノ調査委員ハ最モ公平ニ撰拔セラレタル者ニシテ而カモ其報告右ノ
如ナルカ故ニ從來ノ幼者酒類賣買取締法ヲ改定シテ一層嚴重ナル法律ヲ設クルノ必要ハ朝野ノ均シ
ク是認スル所トナリ

英國ノ諸領地ニ於ケル法律 幼者禁酒運動ハ歐洲大陸諸國ニ於テモ將ニ熾シナラントス然トモ外國
ノ禁酒形況記事ハ之ヲ他日ニ譲リ本誌ニ於テハ專ラ我英國ニ關スル禁酒運動ノ成否如何ヲ敍述セン
ニ止リ他ヘ携帶シ行クコトハ自由ナルカ故ニ幼年飲酒禁止ノ大目的ハ斯ル不完全ナル

我屬地及殖民地ノ現況ハ左ノ如シ

(ア) ベルムダノ法律 「アンチグワ」ニ於テ制定セラレタル法律ハ左ノ如シ

一千八百七十九年「アンチグワ」ニ於テ制定セラレタル法律ハ左ノ如シ
酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿六年以下ノ幼者カ飲用スルヲ知テ之ニ酒類ヲ賣ルコトヲ得ス

前項ヲ犯シタルトキハ二十磅以下ノ罰金ニ處シ竝ニ該罪犯ノ告發ニ關スル一切ノ費用ヲ該犯負
り徵収ス又再犯ノ場合ニ於テハ前記罰金及告發入費ノ外ニ酒類販賣免許ヲ三箇月以内停止シ三犯ノ
場合ニ於テハ酒類販賣業ヲ禁止ス

(イ) ケープ、ヨーロッパノ法律 (一千八百八十三年制定) 酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ又ハ飲用セシメタルト

キハ十磅以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十磅以下ノ罰金ニ處ス

「ゼーロン」ノ法律(千八百九十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者又ハ飲食店ノ店主タル者滿十五年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシ

メタルトキハ十留以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ二十留以下ノ罰金ニ處ス

「フーランド」島ノ法律(千八百八十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ消費セシムルトキハ十磅以下ノ罰

金ニ處シ且初犯ニ於テハ酒類販賣ノ免許ヲ六箇月間停止シ再犯以上ニ於テハ該免許ヲ取上クヘキモ

ノトス又該免許ヲ有スル者ニシテ旅店飲食店等ノ營業者ナルトキハ再犯以上ニ於テハ該營業ヲ二年

以上五年以下停止ス

何人タルヲ問ハス滿十二年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ之ヲ持チ去ラシメタルトキハ五

磅以下ノ罰金ニ處ス

「ガービア」ノ法律(千八百九十四年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシムルトキハ二十志以下

ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十志以下ノ罰金ニ處ス

「ザブローター」ノ法律(千八百八十五年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ兒女ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシムルトキハ二十志以下

セタ以下ノ罰金ニ處シ再犯ニ於テハ五十「ペセタ」以下ノ罰金ニ處シ三犯ニ於テハ百二十五「ペセ

タ」以下ノ罰金ニ處ス

「グレナダ」ノ法律(千八百九十六年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十二年以下ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ又ハ人ヲシテ賣ラシメタルトキハ五十

磅ノ罰金ニ處ス

「アイヌ、ラフ、マン」島ノ法律(千八百九十七年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿二十四年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シ又ハ人ヲシテ販賣シ若

クハ交付セシメタルトキハ四十志以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ五磅以下ノ罰金ニ處ス

「マルタ」島ノ布告(千八百八十三年發布)

何人ニ限ラス滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣スルコトヲ得ズ

「マニトバ」ノ法律(千八百九一年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣合シタルトキハ二十五弗ノ罰金ニ處シ他ノ

命ヲ受テ酒類實地供給シタル者モ同罪ニ處ス

「マニトバ」ノ法律(千八百九十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ給與スルトキハ十弗以下ノ罰金ニ處ス

犯以上ハ二十弗以下ノ罰金ニ處ス、他ノ命ヲ受ケテ酒類ヲ販賣シ若クハ給與セル者モ亦同罰ニ

處ス

「ニュー、フーランド」ノ法律(千八百九十八年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十八年以下ノ少年ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付スルトキハ五十弗以下ノ

罰金ニ處ス

「ニュー、サウス、ウェールス」ノ法律(千八百九十八年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ販賣シ若クハ交付シテ之ヲ飲用セシムルト

キハ十磅以下ノ罰金ニ處シ再犯以上ハ四十磅以下ノ罰金ニ處ス他ノ命ヲ受テ酒類ヲ實地販賣シ若ク

ハ交付セル者モ亦同罰ニ處ス

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十五年以上ノ幼者ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシムルトキハ二十志以下ノ罰金ニ處ス

「ニュー、ゼーランド」ノ法律(千八百八十二年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十六年以下ノ幼者ニ酒類ヲ供給シテ之ヲ飲用セシムルトキハ十磅以下ノ罰金ニ處ス

初犯ニ於テハ酒類販賣免許ヲ六箇月間停止シ再犯以上ニ於テハ該免許ヲ沒收ス

「南部濠洲」ノ法律(千八百八十年制定)

酒類販賣ノ免許ヲ有スル者滿十五年以上ノ兒女ニ酒類ヲ賣リ之ヲ飲用セシムルトキハ二十志以上五

磅以下ノ罰金ニ處ス

「藻洲」クイーンズランドノ法律(千八百八十五年制定)

飲食店ノ店主又ハ酒類小賣業人タル者滿十四年以下ノ兒女ニ酒類ヲ販賣供給シタルトキ又ハ滿十

八年以下トノ兒女ニ酒類ヲ販賣供給シテ之ヲ飲用セシムルトキハ一磅以上五磅以下ノ罰金ニ處シ再

犯以上ハ三磅以上十磅以下ノ罰金ニ處シ且ツ罪犯告發ノ費用ヲ納付セシム

「神藤才一」君(百十六番)

私ハ提出者ニチヨット御氣ノ毒デスガ、質問致シ

マス、此酒ト申シマスルハ、日本酒バカリデスカ、或ハ葡萄酒麥酒其他色ニア

リマスガ

○根本正君(一百八十四番) 酒ト云フモノハ、即チ「アルコール」ノ這入^{ミテ}居ル、世界共通ノ酒デアリマス

○神藤才一君(百十六番) 併ナガラ——ソレカラモウ一ツ問ヒマスガ、無論

十八歳以下トアリマスカラ、小兒モ這入^{ミテ}居リマセウナ

○根本正君(二百八十四番) 這入^{ミテ}居リマス

○神藤才一君(百十六番) 説明致シマス、酒ハ百藥ノ長ト云フコトハ、天

保年中ノ話デアッテ、ソレモ卽チ藥ノ度トシテ、醫者ノ吳レルノハ、是ハ藥ト

名ガ附イテ居ル、此處ニ言^タテ居ルノハ、マダ青年ニシテ體力ガ具ラヌ所ノセ

ノデアル、體力ノ具ハラヌモノガ、サウ云フ風ノ危險ナモノヲ入レルト云フ

ト、即チ胃袋ガ固^タシマ^タテ、早死ヲスル、早死ヲシタナラバ、國家ノ不生

産的ニナルト云フ譯ニナルノデス、アナタノ百藥ノ長ト謂フノハ、ソレハ餘

程昔ノ御説デアッテ、今日デモ矢張百藥ノ長ニナルベキ場合モアル、アルケレ

ドモソレハ醫者ノスルコトデアッテ、此法律デ以テサウ云フコトマデ、此處デ

極メル譯デハアリマセヌ

○花井卓藏君(一百八十三番) 一ツ質問致シタイノデアリマスガ、第一ニハ

罰則ニアリマス、罰則トレテ掲ダテゴザイマス條文ニ依^タテ見マスルト、犯ス

者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ストアル、即チ違警罪、警察法違反ノ性質

デアル、明治二十三年ノ法律第八十四號ニ依^タテ見マスルト云フト、此等ノ

立法ト云フモノハ、所謂此委任命令ニ依^タテ地方長官ニ於テ、若クハ其他ノ

行政官ニ於テ、機宜ヲ見マシテ隨意ニ立法シ得ラル、コトニ相成^タテ居ルノ

デ、而シテ何レノ國ノ立法例ヲ見マシテモ、我國ニ於テモ回ヲ重ヌル十六回

即チ科料ノ立法ヲ爲シタ實例ハナイノデアリマスガ、提出者ノ御意見ハ誠ニ

結構ナルモノト致シマシテ、儲テ帝國ノ大立法院ニ於テ、而モ警察官吏ノ處罰スベキ行政官デモ、下級ノ者ガ立法シ得ラルベキ、此科料ノ制裁マデモシナケレバナスト云フヤウニ立至リマスト云フ事柄ハ、提案者ノ見ル所ヲ以テスレバ、議院ノ立法ノ能力ト云フモノハ、段々下落シテ來テ、サウシテ此科料立法マデニ及ンダト云フ事柄ヲ、世ノ中ニ表明シヤウ、世界ニナキ例アルカラ、更ニ表明シヤウト云フ御考デアリマスカ、ドウデアリマスカト云フコトヲ、第一ニ承リタイ、ソレカラ第二ニハ、英吉利ノ法律ヲ引用セラレテアルノデ、引用セラレタリト雖モ、英吉利ノ法律ニ於テハ、此取締ニ關シマシテ科料ハ科サナイ、違警罪トシテハ罰シナイノデ、矢張罰金ヲ科スルノアル、故ニ提案者ノ引用セラレマシタル英吉利ノ例ト云フモノハ、本案ノ如ク違警罪ニ處スルト云フコトノ實例ニハ、相成ラヌモノデゴザイマスガ、提案者ハ矢張此科料モ罰金ト同様ナ意味デアルト云フ御考デアリマスカ、是ハ同様ノ意味デアルト云フ御考デアルナラバ、寧ロ第一段ニ於テ、私ガ違警罪立法ニ附イテ御質問申スコトノ、却テ御氣ノ毒デアルト云フコトヲ考ヘルノデスガ、提案者ハ法律ノ名稱ノ下ニ於テ、科料ト罰金トハ同様ノモノト御考ニナラテ居ルヤドウカト云フコトヲ、一ツ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニハ、此案ハ昨年ノ議會ニモ出テ、根本君ハ熱心ナル演説アリシニモ拘ラズ、餘リニ小サクシテ誠ニ幼者保護法ノタメニハ結構デゴザイマスガ、既ニ此席ニ於テモ、ドナタカノ御話ガアフタヤウニ、心得テ居リマスガ、幼者保護ノタメニハ、或ハ子供ガ便所ニ往ク取締ニ關係スル法律モ作ラナケレバナルマイ、或ハ衣服ヲ著セル方法ニ附イテノ法律モ作ラナケレバナルマイト云フガ如クニ、些細ナルモノモ出テ來ルカラシテ、是ハ家庭ニ訴ヘ、若クハ學校ノ教員ノ力アル教育家ニシテ貰シタラ、差支ナイト云フヤウナ意味合ニ於テ、多分否決ニナシタコトヲ記憶シテ居ルノデアリマスガ、根本君ガ演説セラル、如キ、大々的ノモノデモ何デモナインデアリマスカラ、此案ノ通過スル曉ニ於テハ、帝國議會ノ立法ノ相場ト云フモノハ、違警罪ニマテ下落シタノデアルカ、ソレカラ我國ノ家庭ト云フモノハ、法律規則ヲ待ツニアラザレバ、子弟ノ訓戒懲戒ト云フ事柄モ出來ナイト云フコトヲ、披露スルト云フヤウナ惡例ニナリハセヌカト云フ考モ起ルノデス、尙ホ茲ニ一言致シマスガ、亞米利加トカ英吉利ト云フ事柄ヲ、頻ニ仰シヤイマスガ、英吉利杯ニ於テ、國會何事ヲカ爲ス、吾人ヲシテ更ニ之ヲ試ミシメヨト云フヤウナコトヲ絶叫スル、即チ非國會論者ノ言動ノ中ニ、例トシテ引カルル所ハ、常ニ煙草ヲ飲ムヲ禁ズル、或ハ酒ヲ飲ムヲ禁ズルトカ、或ハ骨牌ノ法律ヲ立て、稅ヲ取ルト云フヤウナ事柄ノミ、幾多ノ例ヲ引イテ居ル、天下ノ大經綸大立法ヲ爲スコトガ出来ズシテ、コンナ區々タルコトヲヤルナラバ、國會ト云フモノハナイ方ガ宜ノデアル、即チ英吉利ノ國民ガ最モ愉快ニ感ズル所ノモノハ、行政官地方ヲ巡廻シ、國會議員故郷ニ歸り、國務大臣水ヲ飲ムトキデアル、ソレハ詰ラヌコトバカリシテ、居ルカラアル、其引用セラレテ居ル例ニハ、是ハ同ジ

○根本正君(二百八十四番) 誠ニ色ミノ例ヲ引イテノ質問デアリマシタガ、甚シキニ至ヅテハ、下落ノ文字杯ヲ使タ、サウ云フ分ラナイ質問ガアルカラコソ、下落スルノデアル(笑聲起ル)サウシテ全體是ニ附イテハ、花井君モ誠ニ御熱心デアルシ、必ズ此委員ニ御這入リニナラテ居ルコト、信ジマスカラシテ——アナタガ委員ニナラテ居ラウト信ジマスカラ、委員會デーイ辯ジマス(花井卓藏君「唯今御辯ジナサイ」ト呼フ)唯ソレヲ辯ズルニ足ラヌト云フコトヲ、私ハ茲ニ一言明言シテ置キタイ、花井君ハ常ニ反對的ノ質問ヲスル、何レノ法律案ニ附イテモ反對的ノ質問ヲスル、此處ハ苟モ赤心ヲ以テ、國家ノタメニスルト云フコトデナケレバナラヌノデアル(笑聲起ル)先達安藤龜太郎君ガ出シタ法律案ニ附イテモ、反對的ノ質問ヲサレタノデアル、斯ノ如キ質問ヲサレルト云フコトハ、實ニ容易ナラヌ(笑聲起ル)恆松隆慶君「委員付託ニ願ヒマス」ト呼フ)且ツ花井君ハ質問ヲスルニ附イテ、ドウモ(答辯デアリマスカト呼フ者アリ)答辯スルノデアリマス、答辯ノ價值打ガナイト云フコトヲ申スノデアリマス、花井君ハ白イモノ黒イ、黒イモノ白イトスル、甚シキハ輿論デ知ラテ居ル所ノ謀殺マデモ、故殺デアルト云フコトヲスルノデアルカラ、私ハ答辯スル價值ナント思ロマス

○望月長夫君(二百四十一番) 一二百四十二番、政府委員ニ質問致シタイ

○議長(片岡健吉君)

望月長夫君

○望月長夫君(二百四十二番) 今日ハ政府カラハ骨牌法案が出、サウシテ議員カラハ幼者飲酒禁止法案が出て、非常ニ好イ組合セニナラテ居ル、私ガ政府ニ問ヒタインハ、政府ノ本案ニ對スル御意見ハ如何デアルカト云フト、骨牌法案ノ如キ即チ奢侈品ハ、弊害ヲ生ジ易イト云フコトヲ以テ、出テ來テ、好箇ノ財源ト見テ、サウシテ之ニ課稅シテ、殆ト事實ノ上ニ於テ公認シ獎勵シテモ徵稅シャウト云フ政府デアルカラ、此酒ノ如キ勿論多少ノ弊害ハアルケレドモ奢侈品デ立派ナ財源デアルカラ、是ハ好財源ト認メテ、ア、云フ骨牌法案ヲ出シタ政府ノ精神カラ云ヘバ、無論反對デアラウトハ信ジマスガ、矢張骨牌法案ニ反對スルト同様ノ精神デ、之ニモ反對ニナル政府ノ御意見デアルカラ

○恆松隆慶君(二百二十四番) 政府ノ主任者ハ出テ居ラナイカラ、ドウカ早ク委員付託ニ願ヒタイ

(「賛成イヤ」ノ聲起ル)

○議長(片岡健吉君)

委員付託ニ賛成ガアリマスカ

○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス——議事日程ノ第十九
ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス木村誓太郎君

第十九 計業稅法中改正法律案(恆松隆慶君外四名 第一讀會 提出)

計業稅法中改正法律案(恆松隆慶君外四名 第一讀會 提出)

計業稅法中左ノ通改正ス
第一條第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 鐵道業

第五條ヲ第五條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第十條ヲ第十條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第十條ノ二 計業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ
一箇年報償金額百圓以上ノ者トス
第十二條業名、課稅標準及稅率表中「運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇
繫場業、貨物陸揚場業」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
鐵道業(收入金額 千 分)十

同條中「公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業」ノ稅率「百圓毎ニ金壹圓」ヲ
「千分ノ十五」ニ改ム

第十六條第一項第一號中「賣上金」ノ下ニ「收入金」ヲ加フ
第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ居出ヲ爲ササルトキ又ハ其
ノ居出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定

第十八條第四項ヲ削ル
第二十一條第二項中「船舶碇繫場業」ノ下ニ「鐵道業」ヲ加フ
第二十六條中「營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格」ヲ
「課稅標準」ニ改ム

第二十七條中「再審查」ヲ「審查」ニ改ム
第二十八條ヲ左ノ如ク改ム
第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審查委員會ノ諮詢ヲ
經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二 各稅務管理局所轄内ニ營業稅審查委員會ヲ置ク
審查委員ノ定數及審查委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定

審查委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 収稅官吏ハ審查委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ

得

第二十八條ノ四 計業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴
願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十一條第一項第一號中「賣上金額」ノ下ニ「收入金額」ヲ加フ

本案ハ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス
(木村誓太郎君演壇ニ登ル)

木村誓太郎君(五十三番) 私ハ提出者ノ一人デゴザイマスカラ、本案ノ理

由ヲ述ベヤウト思ヒマス、營業稅法ノ改正ハ是マデ兩三回本院ニ現ハレタコトハアリマスガ、未ダ兩院ヲ通過シタモノハゴザイマセヌ、此稅法ハ施行以來最早六年ノ星霜ヲ経テ、既ニ一ノ習慣ト爲シテ居リマスカラシテ、今日ニ於テ根本的ノ改正ハ、私ハ望マナイノデゴザイマス、唯其中ノ著シク不權衡ト認メマスル所ノ、鐵道ノ課稅標準ヲ改メ、モウ一ツハ十二條ノ末項ニ在リマスル所ノ、報償金ノ稅率デアリマシテ、其他二三ノ缺點ヲ補フコトニ止メタノデゴザイマス、鐵道ノ課稅標準ハ、ナゼ不權衡デアルカト申シマスルト、彼ノ鐵道業ハ是マデ運送業ト云フ業名ノ中ニ含マレテアリマシテ、總テ現在ノ方法デ見マスルト、資本ニ依シテ稅ヲ課スルコトニナツテ居リマス、資本稅デアリマスルガ故ニ、如何ナル收入ノ少イ鐵道デモ、資本ニ依シテ稅ヲ課スルガタメニ、利益ノ配當ハ無配當デモ、稅ニ於キマシテハ、一割以上アルモノト同シ納稅ノ義務ヲ負擔シテ居ルノデゴザイマス、凡ソ利益ノ多イ鐵道デ見マスルト、線路哩戻ノ割合ニ資本ガ少ナク出來テ居ル、又收入ノ少イ鐵道デ見マスルト、哩戻ノ割合ニ資本ガ澤山掛クテ居ルト云フコトガ、事實デゴザイマス丁度利益ト資本トガ反比例ニナツテ居リマシテ、即チ利益ノ少イ鐵道ニ重キ稅ヲ課シ、利益ノ多イ鐵道ニハ、比較的輕イ稅ヲ課シテ居ルト云フ姿ニナツテ居ルノデアル、是ガ唯輕重ヲ申シマスルノハ、唯今申シマシタノハ、甲鐵道ト乙鐵道トノ比較的ノ輕重ヲ申シマスルダケノコトデ、大體カラ申シマスルト、元來ガ此鐵道ト申スモノハ、他ノ營業ニ較ベテ見テハ、餘程過重ノ負擔ヲシテ居ルト申サネバナリマセヌ、抑、鐵道其物ニ對シテハ、國家ハ從來保護獎勵ノ方針ヲ取テ居リマシテ、私設鐵道ニハ補助金ヲ與ヘ、或ハ利子ノ補助ヲナシ、敷地ノ地租ヲ免除シ、又當議會ニ於キマシテモ、私設鐵道助成ノ建議案ヲ、大多數ヲ以テ決議シタル所ノ、精神ヨリ觀察シテ見マスルガサヘ、鐵道其物ニ對シテノ保護獎勵ト云フコトニハ、遺憾ナキガ如キモノデゴザイマス、然ルニ此鐵道ノ營業稅ニ至リマシテ、他ノ營業ト比較的重キ稅ヲ負擔セシムルト云フコトハ、此精神ニ悖ルモノト申サネバナリマセヌ、何故ニ之ヲ過重ノ負擔デアルカト云フコトヲ申シマスルガ、誠ニ販賣業製造業ナドト比較ヲ取テ見マスルト、小賣業ヲシテ居リマスル者デ、百圓ノ稅金ヲ納メル

者ノ賣上金高ノ如何程カト申シマスルト、凡ソ五万圓ト云フノニ相當シテ居リマス、小賣業ノ稅ハ賣上金高ノ萬分ノ十五デゴザイマスルガ故ニ、五万圓ノ賣上金ニ對シテ、七十五圓ニシカナリマセヌガ、其外ニ賃貸價格ノ稅ヲ納メマスカラ、先ソ五万圓ノ賣上金アルノモノハ、百圓ノ稅ヲ納メルモノト見ナケレバナリマセヌ、五万圓ノ賣上金ガアレバ、其一割五千圓ハ利益アルモノト看做スコトガ出來マス、五千圓ノ利益ニ對シテ百圓ノ稅デゴザイマスカラ、利益ノ百分ノ二ニ相當シテ居リマス、又卸賣ハ百圓ノ稅ヲ納メル者ズ、賣上金ガ十五万圓アルモノニ相當致シマス、是モ亦十五万圓デ卸賣ノ稅率万分ノ五ヲ乘ケマシタナラバ、七十五圓ニコソナリマセヌガ、賃貸價格ノ稅ナル所ノ稅ヲ加ヘテ見マスルト、十五万圓ノ賣上金高ノアル者ハ、先ソ百圓ノ稅ヲ納メルモノト見ナケレバナリマセヌ、十五万圓ノ卸賣ノ稅率万リマスト、其三步三厘、即チ五千圓ト利益アルモノト看做ス、是ハ又五千圓ニ對シテ百圓ノ稅デゴザイマスカラシテ、利益ノ百分ノ二ノ稅ニ相當シテ居リマス、製造業ニ至リマシテモ、百圓ノ稅ヲ納ムル者ノ利益ハ略、五千圓アツテ、即チ百分ノ二ニ當テ居リマスガ、獨リ鐵道業ニ至リマシタルガサヘ、鐵道業デ百圓ノ稅ニ對シテノ資本金ト云フモノハ、四万圓ニ當リマス、是ハ賃貸價格モナイ、即チ資本ニ對シテノ千分ノ二半デゴザイマスカラ、四万圓ノ資本ニ附イテ百圓ノ稅ヲ納メル、然ルニ四万圓ノ資本ニ附イテ五千圓ノ利益ト云フモノハ、決シテアリマセヌ、誠ニ全國ノ私設鐵道ノ工事費ヲ計算シテ見マスルガサイ、一哩當リ六万六千圓掛ニテ居リマス、因シテ四万圓ノ資本デハ、一哩ハ出來ナイ、一哩ノ六步通リコソ出來マセヌ、即チ四十八鎮コソ出來ナイ、四十八鎮ニ附イテ一箇年ニ得ル所ノ收入ハ、ドレ位カト云フコトヲ統計ニ依シテ調べテ見マスルガサイ、一箇年ニ五千七百圓ノ收入ヲシテ居リマス、其半額即チ一千八百五十圓ト云フモノヲ、營業費ニ仕拂テ居リマスカラ、利益ハ一千八百五十圓ト云フモノニナリマス、是ハ一千八百五十圓ノ利益ニ對シテ、百圓ノ稅ヲ納メマスカラ、利益ノ百分ノ三半ト云フモノニナリマス、即チ七割餘ノ重キ稅ヲ負擔シテ居ルモノト申サナケレバナリマセヌ、若シ之ヲ仲買ノ口錢百圓每ニ一圓ト云フモノニ對照シテ見マシタナラバ、三倍半ノ重キ稅ヲ負擔シテ居ルト申サナケレバナリマセヌ、斯様ナ次第ゴザイマスカラシテ、本案ノ如ク收入金額ニ改メ、課稅標準ヲ收入金額ニ改メテ即チ千分ノ十二致シマスルガサイ、一万圓收入ヲ致シマスレバ、一万圓ノ收入ニ對シテ百圓ノ稅ヲ課スル、即チ他ト權衡ヲ得テ、千分ノ二ノ稅ト爲シ、モ拘ラズ、十二條ノ末項ニ在リマスル所ノ仲買ノ口錢杯ハ、即チ報償金ニ對スル所ノ稅率ト云フモノハ、百圓每ニ一圓ト爲シテ居ルノモ、是レ又不權衡ト申サナケレバナリマセヌ、ソレデ殊ニ此百圓每ニアリマスルガ故ニ、百圓デモ一圓ノ稅、百九十圓デモ一圓ノ稅ト爲シテ居リマスカラ、是ハ殊ニ不公平

ノ稅率ト考ヘマスカラシテ、他ノ營業ト同シク比例稅ニ改正ヲ致シタノデゴザイマス、ソレカラ第一條ニ一條ヲ加ヘマシタノハ、是ハ他ノ營業ト權衡ヲ取りマシテ、報償金百圓未滿ノ小營業者ハ之ヲ國稅ノ範圍ヲ除イテ、地方ノモノト看做スコトガ出來マス、五千圓ノ利益ニ對シテ百圓ノ稅デゴザイマスカラ、利益ノ百分ノ二ニ相當シテ居リマス、又卸賣ハ百圓ノ稅ヲ納メル者ズ、賣上金ガ十五万圓アルモノニ相當致シマス、是モ亦十五万圓デ卸賣ノ稅率万分ノ五ヲ乘ケマシタナラバ、七十五圓ニコソナリマセヌガ、其外ニ賃貸價格ノ稅ナル所ノ稅ヲ加ヘテ見マスルト、十五万圓ノ賣上金高ノアル者ハ、先ソ百圓ノ稅ヲ納メルモノト見ナケレバナリマセヌ、十五万圓ノ卸賣ノ稅率万リマスト、其三步三厘、即チ五千圓ト利益アルモノト看做ス、是ハ又五千圓ニ對シテ百圓ノ稅デゴザイマスカラシテ、利益ノ百分ノ二ノ稅ニ相當シテ居リマス、製造業ニ至リマシテモ、百圓ノ稅ヲ納ムル者ノ利益ハ略、五千圓アツテ、即チ百分ノ二ニ當テ居リマスガ、獨リ鐵道業ニ至リマシタルガサヘ、鐵道業デ百圓ノ稅ニ對シテノ資本金ト云フモノハ、四万圓ニ當リマス、是ハ賃貸價格モナイ、即チ資本ニ對シテノ千分ノ二半デゴザイマスカラ、四万圓ノ資本ニ附イテ百圓ノ稅ヲ納メル、然ルニ四万圓ノ資本ニ附イテ五千圓ノ利益ト云フモノハ、決シテアリマセヌ、誠ニ全國ノ私設鐵道ノ工事費ヲ計算シテ見マスルガサイ、一哩當リ六万六千圓掛ニテ居リマス、因シテ四万圓ノ資本デハ、一哩ハ出來ナイ、一哩ノ六步通リコソ出來マセヌ、即チ四十八鎮コソ出來ナイ、四十八鎮ニ附イテ一箇年ニ得ル所ノ收入ハ、ドレ位カト云フコトヲ統計ニ依シテ調べテ見マスルガサイ、一箇年ニ五千七百圓ノ收入ヲシテ居リマス、其半額即チ一千八百五十圓ト云フモノヲ、營業費ニ仕拂テ居リマスカラ、利益ハ一千八百五十圓ノ利益ニ對シテ、百圓ノ稅ヲ納メマスカラ、利益ノ百分ノ三半ト云フモノニナリマス、是ハ一千八百五十圓ノ利益ニ對シテ、百圓ノ稅ヲ納メマスカラ、利益ノ百分ノ三半ト云フモノニナリマス、即チ七割餘ノ重キ稅ヲ負擔シテ居ルモノト申サナケレバナリマセヌ、若シ之ヲ仲買ノ口錢百圓每ニ一圓ト云フモノニ對照シテ見マシタナラバ、三倍半ノ重キ稅ヲ負擔シテ居ルト申サナケレバナリマセヌ、斯様ナ次第ゴザイマスカラシテ、本案ノ如ク收入金額ニ改メ、課稅標準ヲ收入金額ニ改メテ即チ千分ノ十二致シマスルガサイ、一万圓收入ヲ致シマスレバ、一万圓ノ收入ニ對シテ百圓ノ稅ヲ課スル、即チ他ト權衡ヲ得テ、千分ノ二ノ稅ト爲シ、モ拘ラズ、十二條ノ末項ニ在リマスル所ノ仲買ノ口錢杯ハ、即チ報償金ニ對スル所ノ稅率ト云フモノハ、百圓每ニ一圓ト爲シテ居ルノモ、是レ又不權衡ト申サナケレバナリマセヌ、ソレデ殊ニ此百圓每ニアリマスルガ故ニ、百圓デモ一圓ノ稅、百九十圓デモ一圓ノ稅ト爲シテ居リマスカラ、是ハ殊ニ不公平

ノ稅率ト考ヘマスカラシテ、他ノ營業ト同シク比例稅ニ改正ヲ致シタノデゴザイマス、ソレカラ第一條ニ一條ヲ加ヘマシタノハ、是ハ他ノ營業ト權衡ヲ取りマシテ、報償金百圓未滿ノ小營業者ハ之ヲ國稅ノ範圍ヲ除イテ、地方ノ財源ニ移スノガ至當ト認メマシタカラ、茲ニ一箇條ヲ加ヘタノデゴザイマスソレカラ第十六條、第十七條、第二十六條ノ改正ヲ致シマシタノハ、現行法メ見マスルガ、少イ資本金額ノ居出ノ不相當ト認ムルトキ、又賃貸價格ノ居出ガ不相當ト認メタトキニ限リテノ規定ハ、ゴザイマスルガ、其他ノ課稅標準ノ居出ノ不相當ト認メタ時ノ、規定ト云フモノガ落チテ居リマス、又納稅義務者ト認メラレルモノニ於テ、全ク居出ヲシナイ者ニ對シテノ規定ガアリマセヌ、是等ヲ茲ニ補足致シタノデゴザイマス、又第二十七條二十八條ニ改正致シマシタノハ、新ニ營業稅審查委員會ノ制ヲ設ケマシテ、又訴願行政訴訟ノ途ヲ開イテ、納稅義務者ガ不服アルトキニ、満足ヲ得セシメルタメノ趣意ニ外ナラヌノデゴザイマス、以上述ベマシタル次第ゴザイマスカラシテ、何卒諸君ノ御贊成ヲ得テ、此不權衡ヲ矯正補足スルヤウニ、御決議アラシコトヲ希望致シマス、而シテ本案ハ何卒特別ノ委員ニ附セラレテ、十分御審查ノ末デ、幾分ノ修正ハ固ヨリ甘ンズルモノデゴザイマスカラシテ、宜シク御審議アランコトヲ望ミマス

○鈴木總兵衛君(百八十一番) 質問ガアリマス、本案ノ大體ニ於テ、第二十一条中ニ、審查委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ、大藏大臣之ヲ命ズトアリマスガ、此商業會議所代表者ト云フモノハ、會頭或ハ副會頭ト云フモノヲ指スノデアルカ、或ハ商業會議所ノ會員ハ悉ク代表者トナルト云フ御趣旨デアリマスカ、少シク不明瞭デアリマスカラシテ、宜シク御審議アランコトヲ望ミマス

○木村誓太郎君(五十二番) 是ハ會頭ノアル所ハ會頭副會頭ト云フモノヲ指ス積デ、之ヲ書キマシタノデゴザイマス、尙ホチヨット申落シマシタ、定メテスクリ改正ヲ致シマシタナラバ、歲入ニ於テドウナルカト云フ御不審ガ起ラウト思ヒマスノデ、其事ヲチヨット述ベテ補ハウト思ヒマス、此鐵道ノ課稅標準ヲ改正致シマスルト、三十三年ノ計算ニ據リマスルガサイ、幾分カ歲入ノ減ズルコトニハナリマスルガ、併シ一方ニハ報償金ノ稅率ヲ改メマスルノト、又鐵道ノ是マデ課シテ居リマシタ資本稅デ見マスレバ、是ハ一定不動ノモノデゴザイマスケレドモ、收入稅ニ致シマスレバ、年々歲々増進スルモノデゴザイマスルカラシテ、幾分ノ差引ノ不足ハ、此本案實施ノ期日、即チ明治三十六年ニスレバ、少シモ歲入ニ缺損ハナク、又幾分ノ剩餘ヲ生ズルコトニナルデアラウト云フ算盤ヲ持シテ居リマス、ソレニ附キマシテハ、一々計算ヲシテ居リマスカラ、委員會デ詳シク申上ゲマス

○鈴木總兵衛君(百八十六番) 本案ハ最モ必要デアリマスカラ、委員ニ附託シテ宜シク審議セラレシコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 鈴木總兵衛君カラ委員付託ノ動議ガアリマスガ、議長

ガ九名ノ委員ヲ指名シテ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通りニ致シマス

○恆松隆慶君(二百二十四番) 此日程二十カラ二十四マデ一括シテ委員長カラ報告アランコトヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通りニ致シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

第二十 (特別報告第一號) 庄内川改修ノ請願 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第二號) 島根縣逾摩郡溫泉 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第三號) 信濃川開鑿移轉ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第四號) 島根縣飯石郡頓原 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第五號) 北海道鐵道速成ノ請願 (委員長報告)

(菅原傳君演壇ニ登ル)

○菅原傳君(二百七十九番) 諸君、此二十カラ二十四マデノ日程ヲ、諸君ニ御報告スルニ先ツテ、請願委員會ノ經過ト結果ニ附イテ、簡短ニ御報告ヲシテ置カウト思ヒマス、請願委員ハ昨年十二月十二日ニ於テ、始テ第一回ノ會合

ヲ開キマシテ、サウシテ委員長ニ不肖、理事ニ高須賀穂君、並河理二郎君、堀家虎造君、此三君が當ラレマシテサウシテ、調査ノ事項ハ三部ニ分チマシテ、法律、租稅、雜部、斯ウ三部ニ分チマシテ、方針ハ院議ニ付スルモノ、院議ニ付スルヲ要セザルモノ、此方針ニ依ツテ、此理事ノ方々ガ主査ニ當ルコトニナジタノデゴザイマス、今日マデ請願ノ件數ガ百八十五件デゴザイマスガ、是等ハ今主査會ニ於テ調査中デアリマスガ、今日マデ請願會ニ於テ査定決定シタ所ノモノハ二十四件アリマスガ、其中十件ガ此議院ニ付スルコトニナリマス、其中五件ハ茲ニ括シテ御報告スルコトニナッタノデアリマス、此日程ノ二十、庄内川改修ニ關スル件ト云フノハ、簡略ニ申シマスレバ、此庄内川岐阜愛知兩縣ヲ貫流シテ居ル大キナ川デアル、一朝霖雨ノ到ル場合ニハ、濁流ガ溢レテ堤防ヲ破壊シ、或ハ橋梁ヲ覆シ、沿岸ノ人民ガ此水害ヲ被シテ、ソレソレ地方ノ費用ヲ以テ、此水害ノ防禦ニ努メテアルケレドモ、力ガ足ラズ中央ノ力ヲ得テ、中央ノ計畫ヲ以テ、是非此水害ヲ防禦スル道ヲ講セラレタイド云フノデアリマシテ、私共委員會ニ於テハ、相當ナ請願ト認メマシテ、之ヲ採擇シテ院議ニ付スルコトニナッタノデゴザイマス、次ハ日程第二十一デゴザイマスガは島根縣ノ邇郡溫泉津村ト云フ所ニ、裁判所ノ出張所ヲ設置スル件デゴザイマスガ、此溫泉津村ト云フ所ハ、ナカク貢イ港デアツテ、其近鄰デハマダ相當ニ繁榮スル所ノ村落モ圍繞シテ居ル、而シテ商工ノ取引上ハ石州ノ東部ノ方ニ關スル取引モ、此港ニ於テ行ハレテ居ル、然ルニ此處ニ

(二二)

ハ裁判所ガナイ、最モ近イ裁判所ハ、大森區裁判所デ、此所ニハ裁判所ガナ

イタメニ、登記其他ノ不便ヲ感ズル次第デアリマスカラ、是非此土地ニ裁判所ノ設置ヲ望ムト云フ願デアリマシテ、是レ亦相當ト認メマシテ、採擇スルコトニナッタノデアリマス、次ニ日程二十二ノ信濃川開鑿ノ移轉ノ件デアリマスガ、是ハ少シ願ノ趣意モ長クナッテ居リマスガ、要點ヲ申シマスレバ、信濃川ハ今日マデノ水害ト云フモノハ、實ニ非常ナモノデ、地方ノ人モ多額ノ金ヲ抛シテ、之ガ防禦ニ當ツテ居ツタノアル、又中央政府ニ

於テモツレく費用ヲ抛チ、設計ヲ爲シ、今日モ既ニ其設計ニ著手シテ居ルト云フ場合デアル、然ルニ請願書ノ望ム所ハ、政府ノ今日設計シテ居ル所ハ、此信濃川ノ寧口下流デアルノデアリマス、三島郡ノ北端ニ在ル所ノ大河津ト云フ所カラ、寺泊ト云フ所マデ信濃川ヲ分流セシメ、サウシテ此水害ヲ防ガウト云フ計畫デアリマス、請願者ハ寧口此下流ノ大河津ヨリハ、モット上流ノ方デ分流スルヤウナ計畫ニシタニ宣イデハナイカ、政府ノ今日ノ計畫モ宣シイケレドモ、尙ホ此川ノ上ノ方ニ於テ分流セシムル策ヲ取ツナラバ、一層宜カラウト思ヒマスカラ、政府ガ今日マデ手ヲ盡シテ居ルケレドモ、此上ニモ手ヲ盡シテ十分調査ヲ爲サレテ、根本的治水ノ道ヲ講シテ、此新潟

縣ノ縣民ノ幸福ヲ得ルヤウニ願ヒタ云フ希望デアリマスガ、是レ亦採擇スルヤウニ決シタノデアリマス、次ニ島根縣ノ飯石郡頓原村ニ電信局ノ開設ノ件デアリマス、此頓原村ト云フ所ノ、郡内ニ於テハ相當ナ市街地デアル、國道モ貫通シテ居ル、區裁判所ノ出張所等モアルサウデアリマスガ、電信局ノ設置ノナイタメニ、取引其他ニ於テ非常ニ不便デアルカラ、是非電信局ノ設置ヲ望ムト云フ譯デアリマスカラ、政府ニ於テモ既ニ豫定地ニナッタト云フコトモ聞イテ居リマスシ、且ツ直ニ設置ヲ望ムト云フ願望デモアリマセヌカラ、此願望モ採擇スルコトニシタノデゴザイマス、次ニ北海道鐵道速成ノ件デアリマスガ、是モ採擇スルコトニ致シマシタガ、既ニ本院ニ於テモ建議案トシテ、過般通過シタ次第デアリマスカラ、改テ茲ニ辯明シマセヌ、詰リ採擇シタト云フコトヲ、別ケテ御報告致シマス

○工藤行幹君(百三十六番) 私ハ委員長ニ一ツ御相談ヲシタイノハ、ソレハ委員長ノ報告ノ中、皆御尤デゴザリマスガ、此第二十二デゴザリマス、此事ハ委員長ノ報告ノ趣モ至極御尤ノヤウニハ思ヒマスケレドモ、併シ此川ノ治水上、上カラヤルトカ下カラヤルトカ云フコトハ、餘程地理ニ明ニシテ、或ハ設計ヲシ、或ハ水量ヲ考ヘ、或ハ此測量モシナケレバナラヌ、此善惡ハ殆ド分ラチノデゴザイマス、吾々特ニ此大河津ノ分流ト云フ所ハ知ツテ居リマスケレドモ、其他ハ知ラナイ、満場ノ皆諸君ガ知ツテ居ルナラバ宜シイガ、本員ガ思フ、恐ラク此水道ヲ掘シテ水害ノ解除ヲスルコトガ出來ルヤ否ヤト云フコトハ、恐ラクハ皆サンニモ詳細ニ御分リニナルマイト思フ、斯ウ云フモスケレドモ、其他ハ知ラナイ、満場ノ皆諸君ガ知ツテ居ルナラバ宜シイガ、本員ガ思フ、恐ラク此水道ヲ掘シテ水害ノ解除ヲスルコトガ出來ルヤ否ヤト云

却テ議院ノ信用ニ私ハ闘ルカト思フノデゴザイマス、事實ヲ盡シタ上デナケレバ、此利害當否ハ分ラヌモノヲ、之ヲ採擇スベシト輕々ニ議スルト云フノハ、事柄ノ大小ハ免ニ角、此議會ノ體面ヲ重ズルタメニ如何デアラウト思ヒマスカラ、願ハクバ委員長ガ此御報告ヲ今日ハ延シテ、今一應御考ニナツタ上ニ、之ヲ議事ニ上ボラセコトヲ希望致シマス

○管野善右衛門君(二百七十九番) 質問ダヤアリマセヌナ

○工藤行幹君(百三十六番) 希望スルノデス

○佐藤宗彌君(二十六番) 質問ヲシヤウト思ヒマス、唯今ノ工藤君ノ議ヲ容レルナラバ、宜シウゴザリマスガ……

○管原傳君(二百七十九番) 今ノ工藤君ノハーツノ意見デアリマシテ、私ガ別ニ申述ベル必要ガナイト思ヒマスカラ、御答ヲシマセヌ

○佐藤宗彌君(二十六番) ソレナラ私カラ質問致シマス、請願書ハ拜見致シマセヌケレドモ、唯今ノ委員長ヨリノ報告ニ據リマスルト、信濃川ハ明治三

年ニ大河津ト云フ所ヘ開鑿スルヨリ外ニ策ハナイト云フコトニ歸著ヲ致シマシタ、然ル處當時種々ナ故障ガ起キ、又開鑿職工等モ事業ニ不馴ノタメニ、十分ノ效果ヲ奏セヌタメニ止メマシタ、其後河身ノ改修ヲ爲シ川幅モ廣メ種々修築ニ力ヲ盡シマシタナレドモ、到底水ガ治マラヌタメニ、三年バカリ前カラシテ、更ニ各所ノ土木監督署デ調査ヲシタ結果、唯今ノ三島郡ヨリ開鑿ヲシテ水ヲ通サナケレバ、到底他ニ良策ハナイト云フコトニ、政府デモ今日デハ稍々決定シテ居リマス、然ルニ一片ノ請願書ガ出マシタガ、此請願書ヲ見マスルト、直チニ開鑿移轉ノ件トアリマス、開鑿移轉ノ件ヲ本院デ相當ナリトシテ、可決シタコトアリマシタナラバ、定テ相當ナ測量其他種々ノ材料ヲ、御調ニナツタモノニアラウト思ハレルガ、其御調等ハ何レノ點カラ、ドウ云フ人ノ調ヲ信任セラレテ、設計ニナツテ居リマスルカ、否ヤト云フコトヲ伺ヒタイ

○管原傳君(二百七十九番) 御答致シマスルガ、此請願委員ノ決定シタ趣意ニ附イテ、尙補ツテ置キマス、サウシタナラバアナタノ御質問ハ御分リニナルカモ知レマセヌ、此請願者ノ希望スル所ハ、今日政府ノ設計シテ居ル所ノモノ、著手シテ居ル所ノモノヲ、否定スルト云フノアリ、全然否定スルト云フノデナイ、政府ノモ宜シ、併ナガラ尙ホ此上ニモ此上流ニ分流ヲ起シタナラバ、尙ホ一層宜シク吾ミハ思フ、故ニ十分測量シテ、其上今日政府ノ著手シテ居ル所ヨリ、宜シキ場所ガ、アツタナラバ、其處ヨリ分流スルコトヲ欲スルト云フノデ、全然政府ノヲ否定シタモノデナイ、是ヨリ宜キモノガアレバ、測量シテヤツテ下サイト云フ請願デアリマスカラ、吾ミハ相當ナコトト認メマシテ、可決シマシタ

○工藤行幹君(百三十六番) 唯今本員ハ委員長ニ御相談ヲシマシタケレドモ、委員長ガ御承知ナイ以上ハ、已ムヲ得ナイカラ、私共ハ反対致スノデゴザイマス、唯今後トデ委員長ノ言ハレマシタ、之ヲ測量スルトカ、調査シテ吳レ

ト云フコトヲ、御採用ニナルト云フ事ナラバ、吾ミハ毫モ異存ガナイノデアル、然ルニ此文章ヲ讀ンデ見ルト、サウヂヤナイ「山下一里有餘ノ水隧ヲ開鑿シ信濃國全部ノ水路ヲ疏通セシメ以テ信越ニ國ノ水害ヲ一掃セシメラレシコトヲ請願ス」トアルカラ、此寺泊リカラヤルノガ惡イ、此上ノ方カラヤラナケレバナラスト、確定シテアルノデアル、之ヲ採擇スルト云フカラ、私ガ輕々アルト云フノデアル、調査シテ吳レト云フナラバ何モ異存ハナイノデアル、然ルニ此信濃川開鑿ト云フモノハ、實ハ容易デナイコトデアル、戌辰ノ初ニ於テモ、政府デ餘程計畫シタ處ガアル、地方カラ金ヲ出シタコトモ若干、官民共ニ費シタ所ノモノハ數百万圓ノ金ヲ費シテ、遂ニ其結果、遂ニ越後ノ暴動ト云フ位ニナツタ事件デゴザイマス、而シテ上カラ疏通スルト、下カラ疏通スルトハ、水利運輸便否ニ大變ナ關係ガゴザイマス、又其所ハドレダケノ勾配ガアツテ、ドレダケノコトヲヤラナケレバナラヌカ、ソレモ分ラヌカラ、調査シテ吳レト云フナラバ宜シイガ、是等ノ利害モ何モ衆議院ハ調査セズシテ、此信濃國カラセズシテ、之ヲ美ナリトシテ採擇スルノハ、如何ニモ早計ナコトデ惡ルイト云フコトデナリ、早計デ衆議院ノ信用ニ關ハラウト思フカラ、是ダケハドウカ否決セラレンコトヲ希望スルノデゴザイマス

○加藤六藏君(二百三十一番) 政府委員ニ質問致シマス、私ハ唯今信濃川開鑿ニ就イテ、移轉ノ件ニ附キマシテ、事實ノ實際ノ地理ヲ知リマセヌ、然ルニ此請願書ヲ出シマシタニ附キマシテハ、其地方ノ人ハ已ムヲ得ヌカラシテ、提出シタ考ヘマス、然ルニ吾ミガ此議場ニ於テ、實際ノ地理其他ヲ知ラズシテ、之ヲ善イトカ惡ルイトカ云フコトハ、實ニ杜撰ノ説ヲ免レヌコト、考ヘマス、幸ヒ土木局長ガ御出ニナリマスカラシテ、此請願書ニ附キマシテ、土木局長ノ御意見ヲ承リタイ

(政府委員内務省土木局長田邊輝實君演壇ニ登ル)

○政府委員(田邊輝實君) 唯今加藤サンノ御尋デゴザイマスガ、此請願書ハ過日請願委員會ノトキニ、私モ出マシテ承ッタノデアリマスガ、先刻委員長ノ御話ニナツタ通、信濃川ハ豫テ大河津カラシマシテ分水ヲスルト云フコトニナリマシテ、其計畫ニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレヨリ上ヘ上ゲタ方ガ宜イト云フ請願書ハ、本員ガ認メマシタ所デハ、請願ノ意味モアリ、建言ノ意味モアルト云フヤウナ書面ト見マシテ、ソレデ委員會ノ方デ御調ニナツタ上デ、政府ハ回ニナルトモ、又廢案ニナリマスルトモ、御回ニナレバ尙ホ政府ニ於テハ、ソレヲ參考トシマシテ、果シテ何カ採ル所ガアリマスレバ採ルシ、採ル所ガナカツタレバ採ラナイト云フコトニ認メテ居リマスガ、大體此請願ニモアルト云フヤウナ書面ト見マシテ、ソレデ委員會ノ方デ御調ニナツタ上デ、在リマスル所ノ線路ハ、是マデ確實ニ調ベタコトハナインデアリマス、併ナガラ一體此信濃川ヲ改修シマスルニ附イテハ、政府ノ餘程以前カラ困難ヲシマシテ、度々此事ハ調べテ見マシテ、若シ請願者ノ云フ如キコトガアリマスレバ、無論築カニヤナラヌ筈デアリマスケレドモ、今日マテツコハ捨テ、問ハナイノデアリマスカラ、多分請願者ノ言フ所ハ、技術上カラ見マシテモ、

信濃川ノ得失上、到底ソコニ施スコトハ出來ナイモノデアラウト想像ハ致シ

テ居リマス、又信濃川ノ此邊ヲ知^シテ居リマス者ニモ、本員ガ聽イテ見タコ

トモアル、ソレハ素人デアリマスカラ、確ナコトハ分リマセヌガ、思ロ寄ラ

ヌ所チヤト云フヤウナコトヲ申シテ居ルコトヲ承^ムテ居リマス、又監督署ノ方

デモ此處ヲ調べテ見タカ、調べテ見ヌカト云フコトハ承リマセヌカラ、尙ホ

書面ガ出マスレバ、監督署ノ方へ一應承^ムテ見マセウト思ヒマスガ、多分此請

願ハ容レラレナイ場所デアラウト認メテ居リマス

○工藤行幹君(百三十六番) 私ガ先刻之ヲ否決スルト云フコトヲ言ヒマシタ

ガ、少シク私ガ願ル所ガアリマスカラ、議長ニ一ツ請ウテ、此決議ヲ延期シ

タイト思フト云フノハ、議院規則ノ第百五十五條ニ「請願書ハ議院ノ決議ニ

依ルニアラサレバ印刷配付セス」トスウアリマス、今委員長ノ言ハレル所ノ

調査ト云フヤウナ挨排ニモ云ヒ、又此決議文ニハ全ク採擇スルト云フコトモ

アツテ、明瞭ヲ缺イテ居リマスル故ニ、免ニ角此請願書ヲ印刷ニ付シテ、一般

ニ配布シテヨク^ク拜見シタ上ニ、此決議ヲシタガ宜カラウト思ヒマスカラ、是ハ先^シ百五十五條ニ據リマシテ、印刷シテ配付ニナルコトヲ希望スル

ト同時ニ、其請願書ヲ配付ニナルマデハ、是ダケハドウカ延期ヲ願ヒタイト

思ヒマス

○恵松隆慶君(二百二十四番) 延期シテ吳レイト云フハ、無理カラヌコト、

思ヒマスカラ、是ダケハ延期シテ、後トハ採擇スペキモノナリト決セラレン

コトヲ希望致シマス

〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 賛成ガアリマスレバ決ヲ採リマス、工藤君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ

〔異議ナレト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ工藤君ノ動議ノ通決シマス、後トハ

委員長ノ報告通御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ其通決シマス、第二部ノ諸君ニ申シテ置キマス、遇日モ報告ニナリマシタル通、篠民三君ガ當選無効ノ宣告ヲ受ケラレマシタガ、是ハ決算委員デアリマスカラ、此決算委員ノ補闕ヲセンケレバナリマセヌ、此散會後ニ第二部ノ諸君ハ、決算委員ノ補闕選舉ヲセラレントヲ望ミマス——諸君ニ御諮リスルコトガアリマス、小林乾一郎君ハ病氣ノタメ今六日ヨリ十五日間請暇ヲ申出ラレマシタ、許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ許可スルコトニ致シマス、報告ガアリ

マス

(書記朗讀)
議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案

提出者 高須賀 穂君

提出者 竹内 正志君

提出者 白井 直彦君

提出者 杉田 定一君

提出者 大瀧 傅十郎君

提出者 竹内 正志君

提出者 鹿谷 五十足君

提出者 持田 直君

提出者 鹿谷 五十足君

骨牌稅法案

神藤 才一君

後藤 文一郎君

宮原 幸三郎君

高津 雅雄君
齋藤 壽雄君
田口 卯吉君
小林 乾一郎君
福島 一造君

幼者飲酒禁止法案

根本 正君

浦野 錠平君

廣住 久道君

山口 定省君
永井 嘉六郎君
今村 千代太君
串本 康三君
鈴木 文三郎君
島田 三郎君

營業稅法中改正法律案

恆松 隆慶君

大矢四郎兵衛君

三輪 傳七君

鈴木 捷兵衛君
淺野 順平君
江角千代次郎君
木村 誓太郎君
兩森 菊太郎君
北田 豊三郎君

○議長(片岡健吉君) 明後八日ニハ會議ヲ開キマス、議事日程ハ追ツテ公報ヲ以テ御通知シスルコトニ致シマス、今日ハ是デ散會致シマス

午後三時四十四分散會

衆議院議事速記録第十一號正誤

頁段行誤

頁段行誤

一八四	下	二二ノ間	〔第四十九條ノ四國務大臣答辯ヲ爲サルトキハ其理山ヲ示明シ質問主意書ヲ受領シタル次ノ會議日迄ニ致シマス、今日ハ是デ散會致シマス〕	一九三	上	一	二二三年二十	三十三年三十
一八五	下	三四	コトニ、定テコトハ、期日五十條	同	同	二	二十二年ノ登記料ガ十八万円	三十二年ノ登記料ガ百十八万円
一八五	上	一二	四十九條	七十七錢	九百七十七錢	百二十三萬千	百九十三萬千	百九十七圓七